

日本農学図書館協議会誌 190号 (2018年6月)

目 次

【巻頭言】	
半世紀を超えた日本農学図書館協議会—創立50周年を契機として— 会長 長塚 隆	1
丸善雄松堂のライブラリアン向け情報サイト「Library Navigator」 大熊 高明	3
【海外図書館の最新動向 第13回】	
韓国の図書館情報事情—ソウル、釜山の主要図書館を訪ねて— 那須 雅熙	8
【自慢のお宝】	
鈴木梅太郎のオリザニン 惟村 直公	23
<図書館紹介> 香川大学図書館農学部分館	25
<図書館員のためのお役立ち情報>	29
事務局報告	36
・平成30年度第1回理事会議事録	
・主な取り組み	

Bulletin of the Japan Association of Agricultural
Librarians and Information Specialists

No.190

June,2018

ISSN 1342-1905

CONTENTS

【Introduction】

“The Japan Association of Agricultural Librarians and Information Specialists”
continuing for more than half of a century -In the wake of the 50th anniversary-
Takashi NAGATUKA1

“Library Navigator,” MARUZEN-YUSHODO’s information site for librarians
Takaaki OHKUMA 3

【A Series on the Current Trend of Overseas Libraries : The13th Part of the series】
Library and information trends of Korea: visiting main libraries in Seoul, Busan
Masaki NASU 8

【Valuable materials of the library】
Oryzanin extracted by Dr. Umetaro Suzuk
Naohisa KOREMURA23

<Introduction of the University Library>
Kagawa University Library, Faculty of Agriculture Branch25

<Useful Information for librarians>29

Note from JAALD36

【巻頭言】

半世紀を超えた日本農学図書館協議会

—創立 50 周年を契機として—

“The Japan Association of Agricultural Librarians and Information Specialists” continuing for more than half of a century —In the wake of the 50th anniversary —

特定非営利活動（NPO）法人
日本農学図書館協議会
会長 長塚 隆

1960年代には戦後の経済発展の中で、農林水産業分野における生産技術・方式も研究開発や技術の進展により大きく変化・発展してきました。このような農林水産業分野における生産技術・方式の大きな変化の中で、研究・開発情報の収集・管理・提供などの改善が大きく求められるようになりました。

本会は、このような時期（1966年）に、農学系研究情報の収集・管理・提供に関する情報管理技術の調査研究や普及を目的として、農林省研究機関（現：国立研究開発法人）、地方公共団体の研究機関、大学の農学系図書館、民間企業の研究管理部門等を会員として創設されました。

大学の農学系図書館や農林省（当時）の研究所図書室などの図書館員や情報専門家を中心に設立されて以来、任意の団体として農学系図書館事業の振興および農学情報の普及を図り、広く農林水産業および関連学術の発展に寄与することを目的として長年にわたり活動してまいりました。2004年3月には特定非営利活動法人として認証され、会の事業を広めてゆくための基盤が一層整いました。

一方では、この半世紀は設立時に対象とした紙資料から電子ジャーナルや電子書籍に代表されるデジタル化への変化の時代であったと言えるでしょう。このような変化は、農学図書館の期待される役割や業務の内容にも変革を迫るものでした。

農学系の図書館員や情報専門家の要望や意見を反映し、日本農学図書館協議会として、積極的に新しい情報管理技術やデジタル資料の活用などについての経験交流を促進するために、セミナーや講習会を開催してきました。

情報管理技術やデジタル資料の活用などについては、国際的な関連も深くなり、他の国の図書館員や情報専門家との経験交流や研修が大切になってきています。2008年8月には多くの会員のご支援とご協力の下、国際農学情報専門家協議会

(IAALD) の第 12 回世界大会を東京農業大学厚木キャンパスを会場に開催することができました。

創立 50 周年を契機として、農学系図書館事業の振興および農学情報の普及や農林水産業および関連学術の発展にさらに寄与できますよう、会員の皆様の意見を広く反映し、より積極的な運営に努めてまいります。

本会の活動内容の今後のより一層の発展のために、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

丸善雄松堂のライブラリアン向け情報サイト

「Library Navigator」

“Library Navigator,” MARUZEN-YUSHODO’s information site for librarians

大熊 高明*

丸善雄松堂株式会社（以下、丸善雄松堂）では、学術情報ソリューション事業部（以下、学情事業部）を中心として、学術研究や教育に関わる法人、並びにそれに所属する研究者、教職員、学生などの方々を主たる顧客としながら、特に図書や雑誌をはじめとするコンテンツの販売を長らく事業の基盤としてきた。

丸善雄松堂では、全国に展開する支店や営業所に勤務する営業担当者が上記のような教育・研究機関の顧客を訪問し、それぞれの顧客のニーズに合わせた商品をカタログなどで案内してご注文を頂くというプロセスを長らく営業活動の主体としてきたが、1990年代後半からのインターネットの普及を機として、その事業のあり方にも大きな変化が生じてきている。

その一つは、顧客が営業担当者の直接的な商品案内を待つことなく、自らの必要とする商品をインターネット上で検索し、発注する流れが一般化してきたことである。丸善雄松堂においては

「Knowledge Worker」(<http://kw.maruzen.co.jp>)というオンラインの法人向け選書・発注システムを広く展開し、大学その他の機関において、250万件以上の和書や500万件以上の洋書を中心とした各種商品の最新情報入手、選書や発注、入荷状況確認をインターネット上で簡便に行うことを可能にするとともに、当該の機関に所属する研究者などの公費発注も含めた資料購入費の予算管理の

一元化も実現することで、紙の発注書を起点として行われてきた顧客側の業務の大幅な効率化に貢献している。

一方で、丸善雄松堂がこれらの顧客に提供する商品は、新刊の図書や雑誌に限られず、その主軸を成してきた洋書や和書、あるいは雑誌の電子化が急速に進み、その提供や契約の形態が非常に多様で複雑になってきている。また、提供する商品のラインアップも、図書や雑誌に限らず、自社開発のものも含めたデータベースやマイクロフィルムなど多様な構成となっている。このような提供商品やそれに関わるサービスの複雑化、多様化の状況を背景として、これらの商品の選定・発注元である図書館員の方々を主たる対象としつつ、商品購入や契約を推薦される研究者、教職員の方々にもよりわかりやすく最新の商品・サービス情報を案内する総合的な情報サイトが広く求められてきた。こうしたニーズを踏まえて、学情事業部が運営しているのが、ここで紹介する「Library Navigator」

(<http://kw.maruzen.co.jp/ln/http://kw.maruzen.co.jp/ln/>) である。

Library Navigatorは顧客全般への重要な営業案内や主要商品のバナー広告などで構成されるトップページに加えて、以下の5つの商品・サービスに関する案内ページで構成されており、それぞれのページにリンクするタブが画面上部に配置さ

*丸善雄松堂株式会社 学術情報ソリューション事業部 〒105-0022 東京都港区海岸 1-9-18 国際浜松町ビル
Takaaki OHKUMA, Academic Information Division, MARUZEN-YUSHODO Co., Ltd. 1-9-18 Kokusai Hamamatsucho Bldg., Kaigan, Minato-ku, Tokyo 105-0022 JAPAN

れている。

- ① e-コンテンツ
- ② eBook Library
- ③ eText Service
- ④ EJ マニュアル
- ⑤ 企画商品/代理店マイクロ

以下、上記の各ページで提供している情報について紹介していく。



図1 Library Navigator トップページ

1. 「e-コンテンツ」ページ

国内外の出版社や新聞社その他のコンテンツ提供元がオンラインで提供する専門分野の資料、新聞などの国内外データベース、あるいは洋書の電子書籍といったe-コンテンツを紹介するページである。ここに含まれるのは、農学やヘルスサイエンスをはじめとする理工医学系はもとより、人文社会科学系も含む専門研究向けのコンテンツ、

さらには学生の学習や教養向けのコンテンツといった幅広い分野、テーマにわたるものであり、歴史的な史料を扱った大型のデータベースなどこの中には含まれている。「e-コンテンツ」ページでは、顧客がこれら多様なe-コンテンツの中から新たなものの導入を検討するにあたっての商品概要や導入済みコンテンツの利用促進を図る際の参考情報を網羅的に提供している。



図2 「e-コンテンツ」トップページ

多様な情報から必要なものに簡便にアクセスできるよう、「e-コンテンツ」のページはさらに「提供元別」、「提供商品一覧」、「トライアル申込書一覧」、「リプリント」のページへのリンクを設けている。

「提供元別」のページでは、法人契約向けにe-コンテンツを提供する国内外の数多くの出版社その他の提供元の中から丸善雄松堂が特にそのコンテンツの質の高さや顧客ニーズの高さを見極めた上でお勧めするものを精選し、一覧化している。

それぞれの提供元ごとの詳細ページでは、対象分野や収録内容の情報、プラットフォームURLなどの各種リンク先情報に加え、丸善雄松堂で制作した日本語カタログファイルをはじめ、それぞれの商品の概要が一目でわかる構成となっている。また、契約に先立って確認したい利用規約や申込書、価格情報も提供しており、できる限りスムーズに契約までの手続きが進められるようにしている。

一方で、提供元に対する関心よりもむしろあらかじめ特定の商品についての関心を持っている顧客向けには、「提供商品一覧」のページで主要商品がアルファベット順で一覧化されており、こちらから商品の詳細情報や日本語のカタログファイルへのリンク情報などに直接アクセスすることができるようになっている。

これらの商品への関心を持った際に、新規導入に先立つ具体的な確認手段として無料トライアルを行うことが一般的になってきているが、それぞれの提供元が設定している無料トライアルの期間や申込書は統一化されていない。「トライアル申込書一覧」のページでは、提供元別にトライアル申込書を一覧にしており、煩雑なトライアル情報の確認や申込手続きを簡便に進められるようにしている。

ここまで紹介した「e-コンテンツ」のページでは、導入後の顧客サービス情報の拡充も進めている。エンドユーザー向け、並びに図書館などの管理者向けの利用マニュアルに加え、動画での利用ガイド提供も順次追加しており、導入したe-コンテンツの利活用促進に広く活用いただいている。

2. 「eBook Library」ページ

このページは、学術・研究・教育機関、企業官



図3 「eBook Library」トップページ

公庁、病院などでの法人契約向けの電子図書館/電子書籍配信サービスである Maruzen eBook Library (以下、MeL) を導入済み、あるいは新た

なタイトル購入や新規サービス契約を検討している顧客に最新の情報を提供するものである。

MeLでは2018年3月末時点で農山漁村文化協会、北隆館、保育社、日本自然保護協会などを含む223出版社の55,900タイトルを提供しており、日本のみならず海外の研究・教育機関での導入も進んでいるが、このLibrary Navigatorの「eBook Library」ページでは、MeLについて人文社会系、理工系、医学系の分野別構成で毎月定期発行される「新刊・新着案内」カタログ、冊子体新刊とのセット購入で特価が適用される「新刊ハイブリッドモデル」の分野別カタログを提供している。

一方で、MeLに電子書籍を提供している出版社ごとの個別カタログもこのページで一覧化しているが、これらのカタログについては出版社名での検索が可能になっており、長々と出版社一覧をブラウズすることなく、当該出版社についてのカタログをすぐに参照することができる。

また、出版社別のカタログだけでなく、時事性の高いトピックに合わせて作成された各種特集カタログやそれぞれの専門分野ごとのカタログも随時新しいものを追加して案内しているが、これらのカタログに掲載するタイトルの選書にはテーマごとに専門の担当者が関わっており、精選された情報の提供を心掛けている。

これに加え、研究・論文作成に必須と言える学術雑誌についてもバックナンバーやカレントタイトル双方の提供ラインアップを拡大しており、最新版のカタログをこのページで参照できるようになっている。

上記のような多角的なタイトル情報の提供を通じて、図書館員のみならず教員や研究者もそれぞれのニーズから選書や購入推薦を行えるようにすることが目指されている。

3. 「Maruzen eText Service」ページ

大学や専門学校を主たる顧客とする教科書の販売は、丸善雄松堂の学情事業部における主要な事業の柱の一つである。この教科書についても、電子化の動きは急速に進んでおり、丸善雄松堂においても個々の教員や学生が購入・利用できる電子教科書・教材配信サービス「Maruzen eText Service」を提供している。Maruzen eText Serviceは、学

部や学科あるいは授業といった単位で教員や学生が電子教科書を購入するもので、その意味においては図書館での契約を前提とするサービスではないが、新たなプラットフォーム「アクトラン」(ActLearn)やそれを通じて提供されるサービスについての問い合わせは導入者数の拡大に比例して増加しており、利用者の利便性の向上のために、Library Navigator 上でも専用ページを設けることとした。



図4 「eText Service」トップページ

電子教科書配信プラットフォーム「アクトラン」(ActLearn)は、様々なOSで作動するタブレットやPC、スマートフォンなどの端末でのマルチデバイス対応が実現しているが、この「eText Service」のページでは、利用者が自らの使用する端末へのアプリのダウンロード方法やサービスの利用方法を記載したマニュアルを入手できる。さらに、利用者からの問い合わせが多い事項を中心としてQ&Aを用意しており、基本的な利用方法からアプリのダウンロード時に発生するエラーの対応方法までを網羅的に記載している。

このサービスでは、出版社が提供している既存の教科書の電子版だけでなく、教員が作成したオリジナル教材の著作権処理やレイアウト整備後の電子版搭載、あるいはISBNを付与しての出版なども併せて承っており、今後はこれらのオプションについての紹介もこのページで順次行っていくこ

としたい。

4. 「EJ マニュアル」ページ



図5 「EJ マニュアル」出版社一覧ページ

2000年代に入ってから学術・研究に関わる図書館での導入が急速に伸長している電子ジャーナルだが、その新規購読やリニューアルにあたっての手続きは出版社ごとに異なっているために非常に煩雑であり、導入・管理を担当する図書館や管理者にとっては、その全てを理解し、最新条件を把握することが難しくなっているため、こうした手続きを包括的にサポートする情報提供が望まれている現状がある。

Library Navigator の「EJ マニュアル」ページでは、こうしたニーズに応えることを目的として、出版社ごとにとりわけ違いが大きい以下のような情報を出版社別のPDF版マニュアルの形式で提供している。

- ① 導入開始時の登録、リニューアル時などの対応方法
- ② 導入後の実際の効果を計る上で非常に有効なツールである利用統計の取得方法

これら出版社別のマニュアル情報に加えて、このページでは電子ジャーナルの利用に不慣れな新任図書館員などを対象とした基本情報のQ&A、複数の出版社のEJを横断的に提供する主要プラットフォームに関連する手続き情報などを一覧化した「補足資料」ページも設けている。

好評を得ているこの「EJ マニュアル」のページについては、今後は対象となる出版社や項目についても順次拡充していく予定であり、特に導入機関が増加している海外電子書籍を対象としたサポート情報の増強も検討している。

5. 「企画商品／代理店マイクロ」ページ

「企画商品／代理店マイクロ」のページでは、丸善雄松堂と大日本印刷が共同開発した「J-DAC」(Japan Digital Archives Center) プラットフォームを通じて提供されるデータベースや、従来から提供している自社企画・出版によるマイクロフィルム、DVD その他の中大型商品、さらに丸善雄松堂が販売代理店として広く案内しているマイクロフィルム並びにそこから派生したオンラインデータベースなどの大型商品の情報を掲載している。



図 6 「企画商品／代理店マイクロ」分類別年表ページ

このページで案内されている商品の多くは人文社会科学系の学術資料であり、中大型の資料購入の学内図書予算や各種の外部補助金などを活用してこうした大型資料の購入を検討する研究者、大学図書館員のニーズを想定した構成を取っている。

商品別の情報には、タイトルのアルファベット、五十音順に情報が並ぶ「タイトル順」ページ、また関心のある年代・分野でどのような資料が出版されているかを一覧で見ることができる「分野別

年表」のページからアクセスすることができ、それぞれの商品についての詳細な情報が提供されているほか、関連する資料の情報も得やすい構成となっている。

各商品の詳細ページでは、商品概要・価格・媒体等の基本情報が一目でわかるよう配置されている一方で、カタログファイルへのリンクも搭載しており、より詳細な内容を収集することも可能である。

また、企画商品の一部は、本稿の冒頭に触れた Knowledge Worker でも取り扱っており、各商品ページから直接 Knowledge Worker の購入ページへ移動することもできる。これにより、商品に関する情報収集から購入に至るまでの流れを Library Navigator 上にてワンストップで行うことができる。

「企画商品／代理店マイクロ」のページでは、自社開発商品に加えて、ProQuest 社(旧 CIS 社)の米国議会資料データベースやマイクロフィッシュを案内するページも設けている。米国ではその立法過程において、上院・下院の委員会、および両院の委員会で実質的な審議が行われると、そこで発生するほとんど全ての記録や文書が国民に公開されることになっており、本商品はその記録を集成したものであり、丸善雄松堂は代理店としてこの商品を長らく提供してきている。このページでは、複雑な商品構成を簡明に紐解きながら、カタログデータとともに案内している。

6. おわりに

教育、学術研究などに関わる図書館が購入する商品は、これまでと同様に図書や雑誌がその中心を成しつつも、電子媒体への急速な移行がその代表的なことからである通り、近年はその提供形態や購入・契約のあり方が複雑・多様化し、また利用者側のニーズも同様に多様なものとなってきている。こうした複雑さや多様性も踏まえながら、いかに簡明かつ効率的に図書館員の方々や図書館に資料購入を推薦される方々が必要な新製品の情報を見つけ出し、また購入後に必要なサポート情報もいかに豊富に得られるかを心がけながら、この Library Navigator での情報提供のあり方もさらに洗練させていくことを目指したい。

韓国の図書館情報事情

—ソウル、釜山の主要図書館を訪ねて—

Library and information trends of South Korea: visiting main libraries in Seoul, Busan

那須 雅熙*

はじめに

筆者は2017年8月28日から9月3日まで、東京農業大学から海外出張費の助成を得て、ソウル・釜山の主要図書館を訪問し、各館の視察と調査研究を行った。韓国国立中央図書館、ソウル特別市立南山図書館、同ソウル図書館、ソウル大学中央図書館、延世大学校学術情報院、梨花女子大学校図書館、釜山大学校図書館、釜山広域市立市民図書館を訪問したが、南山図書館、ソウル図書館を除いて各館のスタッフから主要な業務について説明を受け、図書館を視察する貴重な機会を得た。韓国の図書館事情については、これまで紹介記事、報告や論文が多く、屋上屋を架す愚も避けられないが、肝要なこと、興味深かったことを中心に報告する。

I 図書館情報政策と現状

1. 図書館政策・行政

2006年に「図書館及び読書振興法」(1994)が「図書館法」と「読書文化振興法」に分離し、単独法となった「図書館法」¹⁾は、電子図書館法制に関連して2009年、2016年に改正された。それに続いて、「学校図書館振興法」(2007)、「小さな図書館振興法」(2012)、「大学図書館振興法」(2015)と、順次、館種別に法制度の整備がなされている。

現在、国立図書館3館(2016.12.31)、公共図書館1,010館(2016.12.31)、小さな図書館5,914館(2016.12.31)、障害者図書館45館(2014.12.31)、兵営図書館1,888館(2015.12.31)、大学図書館462館(2016.3.1)、学校図書館11,561館(2016.4.1)、専門図書館602館(2015.12.31)が活動している²⁾。

電子図書館法制に関連して、著作権法も2000,2003,2009年に改正された。国立中央図書館のオンライン資料の収集・保存については2009年に図書館法20条2に規定されるとともに著作権法31条第8項においてその複製が認められた。さらに2016年2月には、改正図書館法が公布され、オンライン資料の納本制度の導入が図られ、2016年8月4日付で施行された。

国レベルの図書館情報政策・行政については、教育部と文化体育観光部における双方の図書館情報政策及び行政により遂行される。そのため、図書館法第12条の規定に従い、2007年12月に大統領直属機関「図書館情報政策委員会」が設置され、総合的な政策調整が図られている。委員長のもとに、文化体育観光部長官が副委員長、教育部長官が委員を務め、文化体育観光部内に図書館政策企画団が設けられている。

図書館法第14条に「5年毎に策定すること」と

*元東京農業大学学術情報課程教授 〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
Masaki NASU, Former Professor, Scientific Information Program, Tokyo University of Agriculture, 1-1-1
Sakuragaoka, Setagaya-ku, Tokyo, 156-8502, Japan

定められている館種及び部署を越えた「図書館発展総合計画」については、2008年に「図書館発展総合計画(2009-2013)」が、図書館情報政策委員会から発表された。「先進一流国家を先導する図書館」というビジョンのもと、公共図書館の増設、および学校図書館等の蔵書数の拡充や、図書館員の増員等も計画された。

次いで、図書館情報政策委員会と文化体育観光部が、「第2次図書館発展総合計画(2014-2018)」を発表した。

それに対する2017年度の実施計画では、公共図書館の地域間不均衡の是正、学校図書館の充実が標榜された。『カレントアウェアネス』³⁾によれば、2018年度実施計画の主要事項は以下のとおりである。図書館の社会的役割と効用に対する認識と現状分析に基づく、時宜に適った目標設定が施策として打ち出されている。

- ・図書館関係予算は1兆413億ウォン(前年比2%増)

- ・公共図書館で実施する生涯学習等のプログラムの10%増

- ・第4次産業革命に備えて公共図書館へのメイカースペースの設置及び運用指針の策定

- ・9つの地方公共団体で、地下鉄や大型商店に24時間貸出、返却が可能な「U-図書館」を設置

- ・834億ウォンの予算で798万冊の図書を購入(全国の公共図書館の蔵書数が1億1千万冊となり、1人当たりの蔵書数が2.2冊に)

- ・17の市、道で司書382人を採用(司書1人当たりのサービス対象人口が1万783人に)

- ・司書教諭の75人増員(総計5,802人に)及び学校運営費における資料購入費の割合を3%以上とする。

- ・学生の読書文化活性化のため、学校1校当たり1つの読書サークルの設置を全国規模に拡大

- ・予算削減、学術情報基盤拡充のため、大学図書館での海外学術データベース28件の契約にあたってのナショナル・サイト・ライセンスの導入

- ・兵営図書館拡充のため71億ウォン(前年比25%増)

- ・矯正施設における読書環境の整備

公共図書館の設置母体は、教育部のもとにある教育自治系と文化体育観光部における地方自治系に二分され、図書館行政もこの二本立てにより遂

行される。地方自治系の方が教育自治系の3倍(1000:230)の数の図書館を管轄し、広域性がある。統一も検討されたが、現在もなお共存する体制が続いている。

2. 情報関連政策とデータベース

知識情報資源管理法(2001)に基づき、情報通信部傘下の韓国情報文化振興院で運営したポータルである知識情報ポータル(National Knowledge and Information Resources Portal, Korea Knowledge Portal, Korea Knowledge and Information Search System)は、政府や公共機関が保有している文書やイメージなどの資料を一般の人々がインターネットを通じて利用できるようにした知識情報検索専門サイトであった。

2011年に「公共データポータル」(<https://www.data.go.kr>)へと改称され、現在、科学技術情報通信部傘下の韓国情報化振興院が担当し行政安全部と共同で運営している。なお知識情報資源管理法とその施行令は、情報化促進基本法が「国家情報化基本法」(2009.5)に全部改訂されることに伴い廃止された。

教育部の傘下に、1999年4月設立された韓国教育学術情報院(KERIS: Korea Education and Research Information Service)は、教育情報サービスシステム(EDUNET)と学術情報サービスシステム(RISS: Research Information Service System)を運営・管理する。日本で言えば、国立情報学研究所(NII)に対応する機関である。

KERISは、学術電子情報の生産と流通のために学術情報デジタル流通システム(dCollection)を開発し、各大学に機関リポジトリ構築の普及を図るとともにKOCW(Korean Open Course Ware)サービスを提供し、オープンアクセス運動(OAK: Open Access Korea)を推進している。

2001年に設立された科学技術情報研究院(KISTI: Korea Institute of Science & Technology Information)⁴⁾は、科学技術情報のデータベース構築・流通、超高速研究網(KREONet)とスーパーコンピュータの運営管理、科学技術情報の分析を主要機能として出発し、現在は科学技術情報通信部傘下にある。日本で言えば、科学技術振興機構(JST)に対応する機関

である。

KERIS と KISTI は「NDSL (National Digital Science Links)」を共同で運営する。NDSL は、国立大学である韓国科学技術院 (KAIST) において国立デジタル図書館プロジェクトとして立ち上げられ、オープンアクセスシステムである KOASAS (KAIST Open Access Self-Archiving System) とともに発展したが、Elsevier、IEEE、Nature、Springer、Wiley-Blackwell、J-STAGE 等の海外のデータも検索できる。

KISTI は 2002 年から参考文献データベースを構築し「KSCI (Korea Science Citation Index) サービスサイト」⁵⁾ で提供している。国内の中心的な学術雑誌 700 タイトルに収録された論文の検索と、引用影響度や被引用数、論文数その他の被引用指数を提供する (SCI 収録の韓国論文数は、2015 年に 5 万 7,626 件で世界全体の 2.77%)。最近の研究開発(R&D)プロジェクトのポータルサイト「National Technology Information System (NTIS)」を立ち上げ、産・学・院で運用している。学術論文出版の各プロセスを支援するサービス (投稿審査システム、学協会向けのポータル、学術出版ポータル (KPubS)、科学技術誌の英語版プラットフォーム等) も提供している。KISTI は日本のジャパンリンクセンターのように、2016 年から DOI 登録機関として認定されている。科学技術情報には、他に光州科学技術院の運営する KORSA サービスもある。

2015 年には国立中央図書館を拠点に、政府、公共機関、外郭機関の 85 機関が保有する知識情報資源を共有し活用する基盤を構築するため「国家政策情報協議会」が発足している。

「国家電子図書館」(dlibrary.go.kr) は、国立中央図書館 (主管機関) をはじめとする 8 つの機関 (国防部、国会、農学図書館、最高裁判所、韓国科学技術院 (KAIST)、科学技術情報研究院 (KISTI)、学術情報サービスシステム (RISS)) が参加する統合検索サービスである。

民間の NAVER は、韓国最大のインターネットサービス会社のインターネット検索ポータルサイトであり、1999 年に設立された。2003 年から学術論文の提供を開始し、2008 年にレファレンスや特許、統計などのデータベースと統合し専門情報サービスとなり、韓国国会図書館、ソウル大学と

提携し、大幅なデータベースの拡充を行っている。2017 年 2 月 8 日現在で、1 億 2,822 万 2,476 件 (引用文献 1,918 万 1,231 件、原文データ 646 万 1,661 件) となっている。韓国では Google Scholar よりも多く利用されていることに注目したい。

II 韓国国立中央図書館 (NLK: National Library of Korea)

1945 年制定の韓国国立図書館法に基づき設立された、文化体育観光部管轄の国立図書館である。現在の機構は、企画・研修部、図書館サービス部、電子図書館部の 3 部に、子ども青少年図書館、図書館情報研究所、障害者図書館、国立世宗図書館が付設される。職員数 326 名 (定員)、予算 1,008 百万ウォン (2016 年度)、蔵書 11,415,630 点 (2018.3.31 現在) を擁する。施設的には本館、電子図書館 (2009.5 設立、本館とは「知識の道」で接続)、国立子ども青少年図書館 (2006.6 設立)、政策・行政情報を提供する国立世宗図書館 (2013.12 設立) を持つ。現在、本館は改修工事を行っており、2018 年の完了時にサービスの改編を予定している。

同館の活動については、国立国会図書館との日韓業務交流を通じて毎年子細に報告⁶⁾ がなされ、随時『カレントアウェアネス』でも動向が報じられる。また、国立図書館長会議 (CDNL) におけるカントリーレポート⁷⁾ により概要を知ることができるので、本稿では簡潔に、特に留意したい項目について箇条にして示す。

(1) 戦略計画

ビジョン「創造的な知識文化強国を先導する国家代表図書館」のもとに、戦略計画「国立中央図書館 2014-2018」を策定し、事業を展開している。

現在、これまでの成果を点検し、第 4 次産業革命による大変革などに能動的、戦略的に対応するため国家を代表する図書館としての役割および機能を再定義する必要性を認識し、中長期発展計画『国立中央図書館 2018-2022』を計画中である⁸⁾。

(2) 図書館活動

- ・オンライン資料の網羅的収集に向けた納本制度を実現した⁹⁾。

- ・8 つの機関が参加する統合検索サービス「国

家電子図書館」(dlibrary.go.kr)を主管する。

- ・Dibrary は、国立中央図書館が国立デジタル図書館を開館した際にオープンしたオンライン上の電子図書館ポータルである。2015年3月、国立中央図書館のホームページと統合し、「デジタル書庫」「本・人・世の中」「ウェブ情報源」「世界の図書館」で構成されるデジタルキュレーションサービスを提供している。

- ・著作権法の規定により、同館の電子化資料(2016年12月現在63万冊)の他館への送信サービスを実施している。

- ・機関リポジトリ普及促進事業 OAK (Open Access Korea) の主管を務め、OAK ポータルを通じて学術資料(現在31機関約53万点)の利用を促進している。

- ・日中韓電子図書館イニシアチブ (CJKDLI)

国立国会図書館、中国国家図書館と連携し、東アジアの電子図書館を構築する活動で、各館でデータベースを提供している。

- ・国家相互貸借サービス 「本の海」(Chaek-baba)を推進

KOLIS-NET(国家資料共同目録システム)をベースに公共図書館のみならずKERISのILLシステムともリンクし、2015年12月現在で879館(公共図書館の77%、大学図書館の24%)が参加しており、発展している。

- ・KOLAS II(公共図書館標準資料管理システム)、KOLIS-NET(国家資料共同目録システム)及び電子図書館サービス(NDL-Net, KOLASYS-Net)

- ・「書誌情報流通支援ウェブサイト」の提供

CIP、ISBN、ISSNについて出版社が登録申請すると、NLKがCIPに基づいて書誌情報を作成しKOLIS-NETを通じて出版前にそれを提供

- ・オンライン資料の組織化(DRMSの構築、メタデータの作成、RDAの導入、VIAFへの参加、国際標準名称識別子(ISNI)コンソーシアムの結成等)

- ・単館のデジタルレファレンス「Ask a Librarian」から協力型オンライン知識情報サービスのCDRS(Collaborative Digital Reference Service)に移行

- ・2016年に資料保存研究センターを設立するとともに、国内の保存協力を推進している。大量脱

酸資料室を開設し、2017年11月から国内の図書館等の資料保存のため「脱酸処理支援事業」を開始した。

- ・図書館研究所(2007)を「司書教育院」(仮称)として発展させる計画である。

- ・2007年設立の「障害者支援センター」が2012年8月に国立障害者図書館(NLID: National Library for Individuals with Disabilities)に発展した。

- ・国立世宗図書館は、国の行政機関の集中する世宗に設立され、行政のために必要な政策・行政情報を提供している。日本の国立国会図書館の支部図書館制度にも似たサービスが展開されているといえよう。2016年からNLK及び政府省庁は連携し、政府省庁の公務員に対して「政策情報支援サービス」を開始した。

- ・国立子ども青少年図書館の諸活動

国内の図書館および関連機関に対し、子ども・青少年の読書振興、文化コンテンツ提供、および子ども・青少年サービス研究に関するさまざまな支援、協力を行っている。

- ・2017年2月に「記憶の博物館」(Memory Museum)を電子図書館内に開設し、博物館機能も発揮し、複合文化空間を目指している。

III 公共図書館

公共図書館の設置母体は、教育部のもとにある教育自治系と文化体育観光部における地方自治系に二分され、公共図書館行政もこの二本立てにより遂行されることは既に述べた。例えば、釜山広域市では、教育系13館、市庁系24館という構成である。

近年の公共図書館では、以下のような事業が推進されている。

- ・読書振興事業

2006年に「図書館法」とは別に「読書文化振興法」が制定され、国や自治体が「読書文化振興施行計画」を策定して読書振興事業を推進する体制になっている。生涯学習活動とともに図書館の教育的機能を重視し、公共図書館、学校図書館における青少年の読書振興事業に力を注いでいる。また、読書療法の効果に注目し、ユニークなプログラムとして読書治療にも長年取り組んできている。

- ・電子資料室の整備と電子書籍サービスの充実

大型図書館ならずとも、電子資料室を整備しデジタル情報利用の普及に取り組んでいる。

・小さな図書館造成事業

当面の図書館増設を目的に、2012年「小さな図書館振興法」が制定され、民間企業と自治体の支援を得て、全国規模で地域密着型小規模読書施設を設置する事業が推進されている。

・特化図書館育成支援モデル事業¹⁰⁾

2017年以降、文化体育観光部は、韓国図書館協会と共同で、多様化・専門化する時代にあって地域の事情（文化、人口、自治体の政策、図書館の所蔵資料）を勘案し、それに適合する図書館を選定し、育成する事業を展開している。

・「地域の記憶」の収集・保存活動¹¹⁾

NLKの指導の下、地域の文化的拠点となる公共図書館が地域資料の収集、電子化、オーラルヒストリー、写真のアーカイブ等により、「地域の記憶」であるデジタルアーカイブの構築を推進している。

・文化体育観光部が実施している「1枚の図書館カードで全国の図書館での貸出しサービスを利用できるサービス」では、全国の参加館で15日間20冊の資料の貸出が可能である。ソウル市から200館が参加している。

1. ソウル図書館

日本統治期の1926年に京城府庁舎として建てられ、1946年からソウル市庁舎として使われていた折衷ルネサンス様式の建物を改修し、2012年10月26日に開館した。背後に新築された新市庁舎（地下5階、地上13階）とは地下1階で連結する。3階に旧市庁舎時代の市長室、接見室、企画状況室を復元するとともに、ソウル資料室（ソウル市および政府機関の出版物、ソウルに関する資料）、ソウル記録文化館（大韓帝国時代以降の史料）を併設してソウルの行政、歴史を知る展示場となっている。

ソウル特別市の地域代表図書館（「図書館法」第22条。当該地域の図書館施策を策定・施行し、関連したサービスを体系的に支援する図書館）として機能する。

サービスの概要

- ①蔵書約20万冊
- ②閲覧席390席

資料室（一般資料室1/2（1/2階）、障害者資料室（1階）、デジタル資料室（2階）、世界資料室（4階））、展示企画室（1階）

③地域公共図書館の支援・協力

ソウル特別市内25自治区内に所在する128の公共図書館と小さな図書館を支援している。

④「特化図書館育成支援モデル事業」におけるソウル市政及び世界の資料

ソウル関連の行政情報、ソウル学資料を収集・提供している。また、世界資料室（4階）で、大使館寄贈資料や国外図書・逐次刊行物を提供している。訪問時に、多くはなかったが英語図書が約1,400冊、逐次刊行物は雑誌12タイトル、新聞2紙が開架されているのを実見した。

⑤オンライン特別サービス

・統合図書検索

ソウル内の各図書館（約320館）に所蔵されている資料の統合検索が可能

・ソウル市専門図書館統合検索システム

ソウルの公共図書館、学校図書館、専門図書館の案内と位置情報

・ソウル市専門図書館統合検索サービス

7つの市立専門図書館・資料室、民間の専門図書館71館の所蔵情報の統合検索サービス

・電子書籍サービス

・町の本屋探し

ソウル市内の400か所の本屋の位置と利用案内

・ソウル知識情報サービス

ソウル関連の行政情報、ソウル学資料についての情報サービス

⑥読書振興事業

「本を読むソウル」「一つの図書館で一冊の本を読む」行事の運営

2. ソウル特別市立南山図書館

図書館前庭の所々に、鳥の巣箱が置かれていてのどかな景色だなんて思ってよく見ると、中にいろいろな図書が入っている小さな本箱であった。それは、あたかも「餌付けの本に群がるように」、読書を野外で気ままに楽しむ環境をさりげなく作っている。

サービスの概要

- ①機構：管理部、図書館サービス部、読書文化振興部

②資料室（逐次刊行物室（2階）、電子情報室（2階）、視聴覚室（2階）、語文学室（3階）、男女共用閲覧室（3階、190席）、人文社会科学室（4階）、自然科学室（4階）、男性閲覧室（5階、216席）、女性閲覧室（5階、186席）、読書相談室/読書治療室（5階）、展示室（1階）



写真1 南山図書館前庭

③図書館で学ぶ・図書館で夢を見る・図書館で体験する活動

図書館で学ぶ：読書治療サービス（読書旅行、個人読書治療）、学校図書館支援（江南、江東教育庁管内小中高 262校へのサービス。学校図書館電算化サポート、図書館担当者運営教育、新刊図書目録作成・配布、学校訪問を通じた読書キャンプの運営）、自動車文庫、KISS（Korean studies Information Service System）¹²原文サービス（国内の1200余の学術団体や韓国学術情報株式会社と契約し、原文データベースを提供）

図書館で夢を見る：読書文化プログラム、「本を読むソウル」「一つの図書館で一冊の本を読む」行事の運営、南山図書館詩文づくりの公開コンテスト、読書教室（中学生のための図書館利用法、資料検索法、読書文化プログラム）、読書会等

図書館で体験する：障害教育プログラム（洋画、日本画、書道、韓国画等の講座）、音楽感想、映画上映プログラム（各種音楽ジャンル、映画、ドキュメンタリー、アニメ等）、展示室貸与等

④ソウル市内図書館との連携・協力

⑤障害者サービス（かつて障害者のための「読書治療プログラム」が優秀事例として表彰された。）

⑥電子書籍サービス

3. 釜山広域市立市民図書館

サービスの概要

①運営目標

未来の夢と市民文化を創造する公共図書館（利用者中心の図書館の造成、需要者中心の生涯学習社会の実現、地域格差解消のための読書環境の造成、共に作り上げて行く図書館文化）

②機構

図書館政策部、総務課、司書課、閲覧課、父兄支援センター

③一般資料室：人文社会科学室（2階）、自然技術科学室（2階）、語文学室（2階）、連続刊行物室（3階）、デジタル資料室（3階）、夢のある本の村（乳児室、子ども室）（1階）

特殊資料室：古文庫室（1階）、アメリカンコーナー（1階）、多文化資料室（3階）、障害者情報室（1階）

その他：大人閲覧室（4階）、男子閲覧室（4階）、女子閲覧室（3階）、学習室 1/2/3（3階）・学習室 4（5階）、歴史館（2階）、家系図資料室（3階）、セミナー室（3階）、サークル室（3階）

④主要事業

・統合図書サービス

最寄りの図書館で本の貸出と返却、図書館間利用サービス

・読書振興事業

今月の本（3冊）、一冊運動（ワンブックワン釜山）：市民誰もが読むべき教養図書を、選定し共に楽しむ汎市民読書生活化運動）、後援会、作者との交流、紹介

・図書館文化学校運営

人文学、語学、読書、趣味等

・特性化プログラム

障害者のための読書治療、疎外階層のための訪問生涯学習、司書の力量強化

・専門家養成プログラム

多文化理解教育講師、心理カウンセラーの養成

・地域福祉施設連携プログラム

地域児童センターや総合社会福祉館、老人福祉施設との連携

・小さな図書館造成支援事業（「幸福な本の分かち合い」事業）

2012年から地域の書店の活性化と「小さな図書館」の蔵書の充実のために推進している。市民が

読み終えた本を、加盟書店が定価の 50%分の図書引換券と交換し、新しい本を購入してもらう。持ち込まれた本は、「小さな図書館」に寄贈するという一石二鳥のシステムである。

- ・テーマがある映画上映
- ・父兄支援センター

父兄とその子女のための教育、知識提供

- ・特化図書館育成支援モデル事業

「日本の植民地時代」、「多文化」「論文」という 3つのテーマが指定されている。

その中で「日本の植民地時代」については、1945年以前刊行の日本語資料 18,000 冊のうち 94 タイトル 1,036 冊、例えば和文新聞の『朝鮮時報』、『釜山日報』を韓国史データベース「日帝時期貴重資料」として蓄積している。

- ・所蔵図書解題の刊行

史料価値の高い韓国関連日本語図書を対象にした蔵書目録『朝鮮関連解放前 日書篇』がある。現在、日本古典文学者の高有貞女史が担当し、古文献室が所蔵する貴重本図書解題を継続的に刊行している。



写真 2 古文献室の和装本

- ・電子書籍サービス、釜山電子図書館
- ・障害者サービス

IV 大学図書館

1. 大学図書館振興法

館種別図書館法整備の一環として、2015 年に「大学図書館振興法」が制定された。将来の大学教育と学術発展に資するため、大学図書館の振興を目指した法律として、単独の法制が整備されたことは評価された。だが、法に基づき具体的な細

則や各種の基準が盛り込まれた「大学図書館振興法施行令」については、基準が法の理念を十分に反映していない、実態にそぐわないものであるとして大学図書館界から見直しが求められており、検討課題となっている¹³⁾。

2. 協力・連携、ネットワーク

大学図書館は、KERIS の EDUNET、RISS、dCollection、KOCW サービスの支援を受け連携を図っている。

各大学図書館では、電子ジャーナルのナショナル・サイトである KESLI (Korean Electronic Site License Initiative) への加盟によるライセンス契約に参加している。

各大学図書館は、KERIS と KISTI が共同で運営する NDSL、科学技術情報通信部所管の理工系国立大学である韓国科学技術院 (KAIST) のサービス、光州科学技術院 (GIST) の運営する KORSA サービスを活用している。

KERIS プラットホームを通じて国立中央図書館から図書の ILL やコピーサービスを受ける (KOLIS-NET)。

(1) 海外研究情報センター (FRIC : Foreign Research Information Center)

2009 年に当時の教育科学技術部は、国際的学術情報の戦略的収集を目的に基金を創設し、それぞれの専門分野を主要な大学図書館に割り振り、研究者に対する無料の文献提供サービスである FRIC の運営を開始した。各大学図書館は、下図¹⁴⁾のように、主題領域に応じた外国語文献を分担収集するセンターとして、各自の研究分野に役立つとともに、他の大学の求めに応じて、ILL システムを通じて提供する。

(2) ILL の体制

(1)国内

①各大学との契約に基づく ILL (e-mail による)

a. 韓国教育学術情報院 (KERIS) の ILL には 586 機関が参加している。

b. 科学技術情報研究院 (KISTI) のコピーサービスには、300 機関が参加する。KERIS よりも利用が少なく、図書を含まない。

② 契約に基づかない個別大学との ILL

(2)海外

OCLC、日本の NDL および NII、SUBITO、

中国の CALIS 等との連携・協力により相互の文献提供を図る。

大学名	主題領域	研究主要分野
ソウル国立大学校	自然科学	数学、物理学、化学、地球科学、天文学
江原国立大学校	生命科学	薬学、生物学
慶北国立大学校	電子工学、コンピュータ・通信工学	電子工学、IT&通信工学、コンピュータ
慶尚国立大学校	環境、エネルギー	環境工学、鉱物・エネルギー資源工学
高麗大学校	人文科学	哲学、文学、言語学、歴史学
釜山国立大学校	工学	建築、土木工学、機械・物質工学、船舶工学、航空工学
延世大学校	臨床医学	医学、歯科学、東洋医学、看護学
梨花女子大学校	教育学、社会科学	ジャーナリズム、放送、教育社会学
全北国立大学校	農学、動物学	農業、家畜、漁業、海洋学
忠南国立大学校	管理、経営学	政治・外交学、法律、経済経営学

3. 活動評価¹⁵⁾

韓国における図書館の活動評価は、先ずは大学評価のなかで実施された。認証機関が大学を評価する「教育評価認証制」が導入され、韓国大学評価院が認証機関に指定されるところまで進んだ。大学評価の一部でなく図書館を単独の対象とする評価については、2010年に図書館情報政策委員会が、大学図書館振興法制定前の暫定措置として、KERIS の評価を実施したのが最初である。その時、第一位に選ばれたのは延世大学校学術情報院であった。ただし KERIS の評価は、応募性が網羅的でない。現在は、「大学図書館振興法」の第 14 条に評価が規定され、「施行令」で定められている基準や方法

に則り、例えば各館の発展計画、人材・材料の現状、特性、サービス等を斟酌し、教育部により毎年実施されている。

V 大学図書館 (1) 国立大学

1. ソウル大学校 (SNU) 中央図書館

(1) 施設

2015 年 2 月に旧館の中央図書館の背後に冠廷館 (本館の一部がはまり込むように) を新設し、一体的に機能するように空間設定がなされた。冠廷館 2 階の広間の壁に、国立国会図書館法 (NDL) 前文の「真理がわれらを自由にする」やホルヘ・ルイス・ボルヘスの警句等が掲示されており感銘を受けた。



写真 3 本館 (左) と冠廷館 (正面)



写真 4 国立国会図書館法前文等の掲示

①中央図書館

入口 (B2、1 階)、閲覧室 (B2、B1、1 階)、2 階 ((サーキュレーション、レファレンス、逐次刊行物、FRIC、障害者支援センター、コンピュータ・ラボ、国際機関資料、歴史的コレクション、

グループ学習室)、逐次刊行物書庫)、3階(書庫、特殊コレクション)、4階(書庫、新聞書庫、貴重書室、事務室)

②冠廷館(マルチメディア・プラザ)

グループ学習室(2階、4階)、マルチメディア・プラザ(6階)、コンピュータ・ラボ(6階)、キャレル(7階、8階)、ラップトップ・ゾーン(7階、8階)、ホール(7階)

③分館(社会科学、ビジネス、農業・生命科学、法律、国際学、獣医学の各館)、(Yeongeon キャンパスに医学、歯学の各館)

以下は、見学および司書 Goojin Jung 女史の説明や筆者の質問事項に対する回答の英文資料に基づき執筆した。

(2) 図書館経営・活動

・戦略計画には、以下の使命と目標が標榜されている。

使命：世界の上位 20 大学に躍進するための創造的学術情報のハブ

目標：学術研究の中心としての図書館、価値ある知識と情報の設備としての図書館、利用者と交流する図書館

2017年の重要課題及び主要な方向性：①グローバルな先進的大学を完備することを可能にする学術研究支援基盤の設立、②研究成果管理と研究者のための研究支援サービスの強化、③古文書保存管理を組織化することによる利用基盤の拡大、④研究達成のための統合的管理サービスの強化、⑤図書館学術資源の研究者オープンサービスの拡充、⑥学術イベントの VOD の社会的分担、⑦良好な人物を養成する図書館体験プログラムの推進

・蔵書構築方針は以下のとおりである。

すべての主題分野にまたがるコア著作のバランスのとれた学術コレクションを整備すること、学生や学部での学習、教育、研究ニーズを支援する他の資料

選書基準：本学の研究分野に適切性、品質、正確性、利用期待、現在性、適時性があるもの。コレクションは学部推薦、指定図書、レファレンスブック、新刊学術図書、利用者のリクエスト、他の適切な資料。高い利用が期待されない複本は購入しない。

・学生アシスタントとして、軍隊に行かず兵役

の義務を果たす公益勤務要員として 20 名程度が配置されている。

・連携・協力

KERIS や KISTI との連携、NDSL、KORSA を通じた相互利用に参加する。FRIC (海外調査情報センター) については、科学技術分野(自然科学)のセンターとしての役割を負う。

(3) 情報システム、情報サービス

・図書館情報システム

20年間稼働した SOLARS システム (INEC 社との共同開発) は既に古臭くなり、2015年夏に ExLibris 社の Alma、加えて検索システムとして Primo を導入した。さらに学術研究サポートとして Rosetta が 2015年 12月 から稼働している。

・機関リポジトリ (SNU Open Repository)

は、S - Space により提供

定義：SNU のメンバーによる科学的・調査データを収集、蓄積、保存しオープン・アクセス・プロトコルを通じて世界の研究者に提供する。

データの提出資格：SNU メンバー (教授、研究者、院生、学生)

データ：著作権のある pre-examination、post-examination 記事、会議資料、調査資料、プロジェクト・レポート。修士・博士論文 (データベースは図書館のオリジナルテキストとリンク)、未承認・未完成データ、レクチャー・ノート、学生の調査資料等

(4) 教育・研究支援

①Library Liaison & Research Support team (研究支援室)

・研究支援サービス

研究者や学生のリクエストに基づく学術資源の調査、データベース、文献管理ソフト EndNote の活用法、引用・剽窃に関する調査技術に関する個人的相談、Research profile (Researcher ID) の設定と維持

・図書館ワークショップ、インストラクション (教育)

調査データベース、引用管理ツール・文献管理ソフト (EndNote、Mendeley)、研究倫理、剽窃に関する研究者・学生からのニーズに応えるさまざまなワークショップの提供、教授・学部・クラスからのリクエストに基づくクラス、分割セッション、図書館オリエンテーション、ツアーといっ

た関連した様々な形式による図書館教育の準備、図書館教育やマルチメディア・チュートリアルのためのオンライン教育コンテンツの作成

- ・オンライン/オフラインレファレンスサービス
電話・eメール・オンラインボードによるレファレンス質問に対する即時回答、チャットサービス、ワンコールサービス、主題専門資料のオンライン調査ガイド

- ・研究成果分析

a.研究成果とトレンド分析（研究動向）プロジェクト

Scopus の検索や SciVal プラットフォームの測定¹⁶⁾に基づく 2015 年、2016 年における本学の学者の研究成果分析

多数の論文、ペーパー毎の引用や FWCI (Field Weighted Citation Impact)¹⁷⁾のインディケータを使ったカレッジやグラデュエイトスクールへの研究インパクトの測定

調査キーワードや雑誌の主題等を基礎にした主要な学術分野における研究分野の分析

b.研究成果分析&管理システム発展プロジェクト

学者研究プロファイルデータベース：既存のデータベースから集約した個々の学者の出版物、研究プロジェクト、他の研究アウトプットを含む研究プロファイルの作成

研究成果分析システム：サイテーションインデックスを基礎に学部、カレッジの研究成果を管理し分析する集約プラットフォームの開発。データは Web of Science、Scopus、KCI を用い、検索ポータルサイトの NAVER 専門情報から提供される。

②サブジェクトライブラリアンの養成プログラム

サブジェクトライブラリアンは、2007 年から配置しており、現在中央館に 12 名の体制で研究室訪問サービスも行う。

- ・研究支援サービスのための学習グループ

最新文献レビューや客員専門家によるセミナーを通じて、最も効果的な研究支援を準備するための学習グループを運営し知識を分担する。

- ・養成プログラム

さまざまな主題専門的学術データベースによる養成プログラムやサービスに関連した他の専門的セミナーへの参加といった幅広いプログラムを用意する。

- ・研究支援サービスについてのセミナー
研究支援サービスの質の向上のために中央館と分館が毎年分野経験から得られる知識を共有する。

- ・大学院プログラムのための財政的支援

サブジェクトライブラリアンが専門的教育や研究活動を通じて知識を得ることができるように学位取得のための授業料支援を行う。

2. 釜山大学校 (PNU) 図書館

(1) 施設

①ライブラリー 1

1階(サーキュレーション・アクセスサービス、iCommons (情報検索、電子情報サービス、セミナールーム)、2階(文学・芸術図書館、北朝鮮資料室 (2,600 冊)、音楽資料室、国際機関資料室、地図室)、3階(人文・社会科学図書館、グループ学習室、ブックカフェ、読書療法室、貴重書室、文書室)、4階(科学・工学図書館、FRIC、グループ学習室)

②ライブラリー 2

1階(入退館、就職情報センター、iCommons、ホール、障害者閲覧室、アメリカの窓)、閲覧室 (2階、3階、4階)、ラップトップ・ゾーン (2階、4階) キャレル (2階、4階)、共同学習室 (4階)、デポジットライブラリー(古本、使われない資料、複本等のための書庫) (1-3階)

③分館 (法律 (同一の釜山キャンパスにあるが、今回は訪問しなかった。)、医学・ライフサイエンス (Yongsan キャンパス)、ナノ・ライフサイエンス (Miryang キャンパス) の各館)

(2) 図書館経営・活動

- ・使命・戦略計画は公開していない

- ・大学図書館活動評価

毎年度末、教育部の評価を受ける。

- ・蔵書構築方針とコレクションの特徴

学部割合によるため、収集部の選書だけではない収集体制をとっている。

- ・学生アルバイトを積極的に活用している。

- ・連携・協力

2010年に政府支援により、FRICが設置された。専門分野は工学 (Technology) で、年間 7 億ウォンの助成を受ける。研究主要分野は、建築、土木工学、機械・物質工学、船舶工学、航空工学。現在、977 種の外国学術雑誌の無料複写サービスが、

RISS や NDSL の検索を通じて可能となっている。



写真5 FRIC室(ライブラリー1の4階)の立看板

(3) 情報システム、情報サービス

・従来の PURIP に代わる、先進的な学術情報サービスが提供できる iNEC Solars システムに更新中である。

・PNU 生産資料についての機関リポジトリを構築している。

(4) インフォメーションcommons・ラーニングcommonsの整備

ライブラリー2は、最低限の資料しかないが、専らラーニングcommonsとしてコンピュータ利用の各種閲覧室、グループ学習室を整備しており、利用者が多く混雑していた。

(5) 研究支援

・SCI サービス : Science Citation Index に採録された論文群を計量書誌学的に分析し、そこから得られる情報を研究者や大学経営陣に提供。各種のデータベースを用い、世界、国内、学内の分析を行い、結果を冊子体で報告するとともに、ホームページで学部別研究動向や各研究者の引用情報等を提供する。

・サブジェクトライブラリアンは特に存在しない。

VI 大学図書館(2) 私立大学

1. 延世大学校学術情報院¹⁸⁾

(1) 施設

①中央図書館

2階(人文図書)、3階(社会科学、工学図書)、4階(人文・社会科学雑誌、レファレンス)、5階(古典籍)、6階(電子新聞)

②延世・サムスン学術情報センター(学術情報館)(2008年に開館した中央図書館の背後にある別館で1階で相互に接続)

3階(マルチメディアセンター)、5階(科学・工学雑誌、レファレンス)、6階(法学図書館)

*閲覧室、学習室は「インフォメーションcommons・ラーニングcommons」のところで後述する。

③アンダーウッド記念図書館(2013)(2006年に新設されたアンダーウッド国際大学の図書館で、最新の設備をもつ施設だが、今回は訪問しなかった。)

④分館(同一キャンパスに法律、音楽、医学等の各館)

(2) 図書館経営・活動

・使命・戦略計画について

ビジョン: 図書館は延世大学校コミュニティメンバーのための知識の源泉である。

使命: 図書館は世界的に有名な教育のための優良な資料、基盤、サービスを提供し、世界的一流の研究を支援する。

・大学図書館活動評価

常にトップクラスの評価を受ける。

○スマート・カルチュラル・コンビニエントライブラリー

①スマート・ライブラリー

革新的なシステムと IT サービスを提供することにより、電子時代における現実と接続した図書館を形成する。学生が携帯電話や ID を用いて図書館への入退館や資料の貸借ができ、さらに図書館サービスへ容易にアクセスできる。統合した強力なサーチエンジンを活用するための携帯用のプラットフォームを維持する。

・トータルシステム(ExLibris社)及びPrimo Central とウェブ・スケール・ディスカバリー・サービス Summon を導入している。

・電子資料閲覧システム

eLibrary 統合システムとしてLASパッケージのTULIP¹⁹⁾を導入している。

・入退館システム(退館後80分で座席占有の権利が無効)、座席指定予約システム

・モバイル閲覧席予約システム

・ Book SNS Mobile App Service として Yonbook を開発し、学生に配布し本に関する SNS ソフトとして活用してもらっている。Yonbook は、Google Play からアンドロイド端末アプリとして一般に提供されている。

②カルチュラル・ライブラリー

学生は幅広い文化的活動やコンテンツを通じて、様々な芸術を経験することができる。コレクションを通じてマルチメディアのコンテンツを消費することに加えて、かれら自身のメディアを創作し編集するために、図書館資源を利用することができる。図書館におけるいろいろな展覧会やフィルムフェスティバルは、学生が新しいアイデアを涵養し、文化的素養を獲得することを援助する。

主にマルチメディア・センター（延世・サムスン学術情報センター3階）において以下のような機能が提供されている。

・ ストリーミング・サービス。DVD、ブルーレイ・コレクションの提供。CNN、BBC、AFKN サテライト・テレビステーション・チャンネル、IPTV サービス

- ・マルチメディア編集ステーション
- ・メディア創作スタジオ
- ・ギャラリー
- ・フィルムフェスティバル

③コンビニエント・ライブラリー

研究のセンターとして、楽しく、容易なアクセスをするための多くの施設を提供する。これらには様々な特別な利用のために提供される学習席、グループ学習室、現代的な技術を集約した会議室が含まれる。これらすべての空間は、利用者の作業習慣を反映し、効果的な研究や学習を最大限にする。利用者に快適な空間を提供するために、さまざまなリラックス空間と便利な施設が図書館全体に散在している。

インフォメーションコモンズ・ラーニングコモンズの提供として、以下のような設備がある。

a.主に、延世・サムスン学術情報センターに、「インフォメーションコモンズ」が設置されている。その中の「メイカースペース」室では、3D プリンターの使用が3時間フリーであり、学生たちはそれを活用して多くの機器や作品を作成しており、傍でシステムライブラリアンがつきっきりで指導し相談に応じていた。

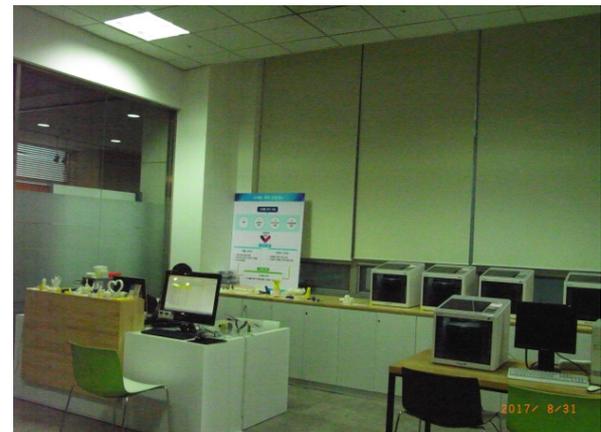


写真6 メイカースペースの室外（上）と室内

b.グループ学習室

IC 協業コーナー（延世・サムスン学術情報センター2階）、プレゼンテーションルーム（延世・サムスン学術情報センター3階）、セミナールーム（延世・サムスン学術情報センター5/6階、中央図書館4/6階）

c.一般自習室

24時間学習室（中央図書館1階）、自習室（中央図書館5/6階、延世・サムスン学術情報センター4階）

d.学習情報教育室（ライブラリー・クラスルーム、マルチメディア・クラスルーム）

e.コンファレンス・ホール

f.リクレーション・エリア

(3) 研究支援

- ・機関リポジトリー

医学中心に構築中、近日中に提供の予定である。

- ・サブジェクトライブラリアンの導入

2008年から11名（韓国学、英文学・文献・図

書館情報学、国際学、政治学、法学、中国学、経営学、物理学・天文学宇宙学、生物学・生化学、建築工学、電気電子・機械工学)を配置していたが、現在、法学図書館のみとなっている。

2. 梨花女子大学校図書館

(1) 施設

- ①中央図書館
- ②ECC (Ewha Campus Complex)
- ③分館 (音楽 (音楽館)、法学 (図書館 5階)、神学 (教会)、医学 (医学館) の各館)

(2) 図書館経営・活動

・サービスの理念・構造

利用者志向 Ewha 図書館サービスは、「資料・施設」、「電子資源」、「調査解決」、「他の機関との協力」の連携サイクルによって構成される。「良質の資源、コレクション・アーカイブ、資源へ接続」による基盤を活用した「良質な調査サービス、個人的な特殊サービス」によって「利用者満足度の改善、大学の目標」を達成する。「良質な調査サービス、個人的な特殊サービス」の方法として、「情報リテラシー教育、調査支援、主題ガイド」「資料選択、レファレンス・サイト、データベース・ヒント、データベース・マニュアル」「個人的調査サービス、調査分析」といった各種サービスが提供される。

・学生アシスタント：文献情報学科の大学院生が補助作業をしている。筆者の見学の際には、日本語の達者な院生が同行してくれた。

・連携・協力

FRIC における梨花女子大学図書館の役割は、教育学・社会科学・芸術&スポーツ分野である。

(3) 情報システム、情報サービス

・トータルシステム (ExLibris 社) 及び電子資料のシステムについて

蔵書と電子資源を総合的に探索するには「Ewha ディスカバリー」が適切である。目録/IR (蔵書と機関リポジトリ、電子ジャーナル)、国内データベース (DBpia²⁰)、KISS、eArticles)、国外データベース (Web of Science、SCOPUS、JSTOR)、オープンアクセスが検索できる。リンクング・サービスとしては、同館ホームページ、NDSL、RISS、NAVER、Google、契約データベース等とリンクしている。

・機関リポジトリ (dCollection EWHA)

現在、学術論文・VOD・博士論文が 93,000 タイトル以上、フルテキスト・VOD が 67,800 タイトル以上構築されている。dCollection EWHA だけでなく、学術情報ポータルである RISS (Research Information Service System) にも提供しており、RISS を通じて検索し入手できる。

・Ewha DSpace: 教授の著作及び論文 59,700 タイトル、フルテキスト 45,300 タイトル。

国立中央図書館 (主管機関) をはじめとする 8 つの機関が参加する統合検索サービスである「国家電子図書館」(dlibrary.go.kr) との連携。

(4) インフォメーションコモンズ・ラーニングコモンズの整備

・図書館空間

「EWU ID カード」による入退館、座席指定予約システム

2階: 正面入口、情報探索、情報探索デスク、EWHA コレクション (教員著作)、新着図書、普及書。

1階: 西入口、ラウンジ、ラップトップ・コンピュータ、A/V コレクション、セミナールーム。

地下1階: PC ルーム、カフェテリア

3階、4階: 書庫、3階: 女性学資料室 (女子大ならではの優良施設と評価される。)、貴重書室、4階: 学位論文、特殊コレクション、逐次刊行物、FRIC、セミナールーム、複写室、5階: 法学図書館

・ECC (Ewha Campus Complex)

閲覧室 (B2)、閲覧室 3 室 (B3)、ラップトップ・ルーム (B3) があり、資料はないが、閲覧スペース、コンピュータ利用専用としてグループ学習可能な広大なラーニングコモンズとなっている。

(5) 教育・研究支援

・指定図書 (eReserves)

・利用教育と情報リテラシー教育

利用教育には定例教育、コース関連教育、基本的調査クラスの三つがある。定例教育は毎月実施しており、ホームページやデータベースの使い方、留学生にはリクエストに応じて。コースでは、データベースの使い方、キーワードやサンプル等を用意したカリキュラムや研究課題への参考、主題文献の探し方 (辞書、百科事典、ハンドブック、統計等)。基本的調査クラスでは、データベースや参考文献、ホームページ、参考デスクでレファレ

ンスライブラリアンに尋ねる。

・サブジェクトライブラリアンの養成と導入
かつては20名いたが、現在9名(11主題)、
院生アシスタントの協力

・サブジェクト・ガイド

人文科学、神学、社会科学、法律、経営管理、
教育学、健康科学等の各主題に対するサブジェク
ト・ガイドの提供

おわりに

韓国では、近年の図書館情報関連政策の確立や
制度的強化が、図書館の質的な充実と量的な拡大
をもたらし、一定の成果が表れている。急速な社
会環境の変化や情報通信技術の進展に対応するた
め、図書館界は挙げて、読書文化の振興、電子情
報資源の普及、図書館情報システムの積極的な利
活用の促進を図ることにより、第4次産業革命に
向けて創造的な知識文化強国を実現したいという
考え方が共通の認識になっているようだ。行政的
には、文化体育観光部、教育部、科学技術情報通
信部と縦割りになってはいるが、大統領直属機関
の「図書館情報政策委員会」が総合調整を行う体
制となっている。

公共図書館については、生涯学習社会や高度情
報社会に対応する幅広い文化行政、教育行政が遂
行できるような組織になっているのではないだろ
うか。また、民間や地域の支援協力を仰ぐこと
にも、積極的であるように見える。日本では、公
立社会施設の所管のあり方として、「図書館は教育
機関か、文化機関か」「図書館法に基づく図書
館か、図書館法によらない図書館か」「教育委員
会管轄か、首長部局管轄か」や、指定管理者制
度の導入等の問題がある。が、韓国では文化体
育観光部への一本化が課題となっているものの、
特に日本のような問題点は話題に上らなかった。

今回は、残念ながら国全体の図書館情報資源
や各図書館のコレクションの態様について、ま
た、司書職制度、図書館情報学教育、司書・専
門職の実態等についても調査し考察することが
できなかった。そのため、全体の評価については
将来の研究に期し、今後の課題としたい。

出張に際し、駿河台大学名誉教授の金容媛先
生、旧知の李在善女史(国立中央図書館図書
サービス部長)、曹慧麟女史(同館企画総括課
司書事務官)

には大変お世話になった。特に曹慧麟女史
には、訪問先の各図書館に対する交渉から段
取りまで、一方ならぬご高配を賜った。また、
一々お名前は記さないが、各館において説
明や案内をしていただいた方々に、文末で
はあるが心から感謝を申し上げる次第で
ある。

注・参考資料

1. 白井京「韓国の電子図書館法制：「IT 大
国」の図書館法と著作権法」『外国の立法』
国立国会図書館, 242, 2009.12, pp87-93.

曹在順「韓国の図書館の現状：国レベル
および国立中央図書館の政策推進を中心
に」『明治大学図書館情報学研究会紀要』
No.3, 2012, pp.12-21.

孫誌銜「韓国図書館界の最新事情」『図
書館雑誌』日本図書館協会, 2015.4, pp.229-231.

2. 『[전국 도서관 통계조사] 통계로 보는
도서관 1호 발간』, 2017.11.6, p26. <https://www.libsta.go.kr/libportal/openMdg/resourceRoom/statsRsc/getStatsRscDetail.do> (Accessed 2018.4.16)

3. 「韓国・文化体育観光部、「第2次
図書館発展総合計画(2014-2018)」の
2018年度実施計画を発表：公共図書
館へのメイカースペースの設置、司書・
司書教諭の増員など」『カレントアウ
ェア・ポータル』国立国会図書館, Posted
2018.2.8. <http://current.ndl.go.jp/node/35455>
(Accessed 2018.4.16)

4. 二階宏之「韓国の引用索引データベース
と学術情報雑誌評価：世界水準の学術
雑誌に向けて」『アジア研究』アジ
ア経済研究所, No.259(2017.5), pp.16-19.

5. 国内の研究論文を対象とした引用索引
データベースには、KCI(Korea Citation
Index)とKSCIがある。国内論文が海
外に流出することによる質の低下を防
ぎ、学術雑誌評価や学術雑誌支援事業、
研究倫理などを強化するための客観的
基礎資料として開発された。

6. 「国立国会図書館と韓国国立中央
図書館との業務交流概要一覧」国立
国会図書館ホームページ>国際協
力活動>各国図書館との交流
<http://www.ndl.go.jp/jp/international/nlk.html>
(Accessed 2018.4.16)

7. Country Reports. Conference of
Directors of National Libraries. <http://www.cdnl.info/countr>

y-reports (Accessed 2018.4.16)

8. 曹慧麟「国立中央図書館の新たな戦略計画に備えて」第20回日韓業務交流、2017年9月20日
http://www.ndl.go.jp/jp/international/pdf/2017theme1_NLK.pdf

(Accessed 2018.4.16)

9. 「オンライン資料の納本制度の現在(4)韓国」『カレントアウェアネス・E』国立国会図書館, No.310, 2016.9.1. <http://current.ndl.go.jp/e1836> (Accessed 2018.4.16)

10. 「韓国・文化体育観光部、地域の事情に合わせて専門に特化した図書館を育成する「特化図書館育成支援モデル事業」の対象となる10館を選定」『カレントアウェアネス・ポータル』国立国会図書館, Posted 2017.6.12.

<http://current.ndl.go.jp/node/34150> (Accessed 2018.4.16)

11. Lee, Jaesun (李在善). Where should the culture of our lives and memory be preserved? :Rethinking the role of the library. Paper presented at IFLA WLIC 2017, Wroclaw, Poland, in Session 189-Asia and Oceania. Submitted on 04.07.2017.

<http://library.ifla.org/1691/1/189-lee-en.pdf>

(Accessed 2018.4.16)

12. 韓国国内の主要学術論文、電子ブック、新聞記事等の総合学術データベース

13. 孫誌銜「ゆれ動く韓国の大学図書館：「大学図書館振興法」制定とその後」『図書館雑誌』日本図書館協会, 2015.12, pp.780-781.

14. ソウル大学中央図書館の司書 Goojin Jung 女史が、私の質問事項に回答して下さった英文資料をもとに翻訳

15. 呑海沙織、溝上智恵子、孫誌銜「第10章「韓国の大学図書館における学習支援」」『世界のラーニング・コモンズ：大学教育と「学び」の空間モデル』樹村房, 2015, pp.149-169.

本書はインフォメーションコモンズ・ラーニングコモンズのみならず、活動評価についても言及している。

16. Scopus を元データとし、世界の研究動向の分析を行う Elsevier 社の研究分析ツール

17. 論文の被引用数について、その論文と同じ出版年・分野・文献種の論文の世界平均（基準値）

化した指標で、平均値 1.0 より高いか低いかで引用率の高低 (%) が分かる。

18. 延世大学校学術情報院と梨花女子大学校図書館については、やや古いが、以下の私立大学図書館協会への研修報告も参考にしたい。

「2012年度海外集合研修報告」 pp.30-44.

http://www.jaspul.org/ind/committee/kokusai/s_hugo_report2012.pdf (Accessed 2018.4.16)

19. 韓国の Futurenuri Inc. が提供する電子図書館システム。国際基準に準拠して開発され、多言語対応、各種図書館への適応、さらに将来的な技術の変化にも対応が可能

20. ヌリメディア社が提供する韓国学術雑誌、学会誌、電子ジャーナルのデータベース

鈴木梅太郎のオリザニン

Oryzanin extracted by Dr. Umetaro Suzuk

惟村直公*

1. 鈴木梅太郎の業績

鈴木梅太郎先生は、静岡県榛原郡堀野新田村(現牧之原市)の農家の次男として1874年に誕生した。1889年に東京農林学校に入学し、1893年に東京帝国大学を総代として卒業した。ベルリン大学に5年間の留学を経て盛岡高等農林学校に赴任し、その後、東京帝国大学教授となった。

ビタミン研究の発端は、ベルリン大学で師事したエミール・フィッシャーより、「東洋における特殊の問題を見つけるが良い」との助言を得て、当時「江戸患い」と恐れられていた脚気に注目し、研究をスタートさせた。

脚気に関わる研究では、オランダ人医学者のアイクマンが鶏の脚気に対し糠が有効であり、微生物による毒素を糠が中和するとためであろうと考察していた。日本人医学者の高木も食物により脚気が少なくなる等の報告をしたが、その理由については明らかにしなかった。また、これ以外に当時の脚気の原因説について、白米による毒素説、有害微生物説などが挙げられていた。

先生は、農芸化学の肥料試験法を動物実験に応用し、タンパク質・脂肪・炭水化物や無機成分を含む人工飼料を実験動物に与えた。しかし、この飼料だけでは、実験動物が死亡することから、何らかの栄養素が不足していると考えた。更に、この人工飼料に米糠を混ぜると実験動物が正常に生育し、米糠のアルコール抽出物も同様な効果があることを発見した。米糠アルコール抽出物に脚気を改善させる物質があると考え、これをアベリ酸と命名し、後に米の学名であるオリザ・サティバ

にちなんでオリザニンとした。



写真 鈴木梅太郎先生 肖像

オリザニンについては、1910年に東京化学会で報告するも高い評価は得られなかった。当時は医学界との壁があり、医師でない農学者の報告は評価されず、1911年には、製法特許を取得したが十分な治験が実施できなかった。

鈴木梅太郎先生の研究から遅れて、1912年に英国リスター研究所のカシミール・フンクが脚気に対する有効成分の抽出を報告した。フンクは、この成分は生命活動をつかさどるアミン化合物であると考え、「vital(生命の)」と「amine」から造語して「vitamine」と命名した。

一方、鈴木先生は、十数報の論文をまとめて1912年にドイツ生化学雑誌に掲載したが、論文が

* 東京農業大学教職・学術情報課程 〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
Naohisa KOREMURA, Tokyo University of Agriculture 1-1-1 Sakuragaoka, Setagaya-ku, Tokyo, 156-8502

日本語であったため、内容が理解されずフックに出遅れて第一発見者の榮譽を受けることが出来なかった。

わが国で鈴木先生の業績が評価され始めたのは、1918年以降に欧米でビタミン研究が盛んに行われるようになってからである。ようやく脚気がビタミンB1欠乏症であることが認められ、1924年に初めてビタミンB1が結晶化された。

2. 東京農業大学との関わり

鈴木先生は、東京帝国大学退官後、東京高等農学校（東京農業大学の前身）に東京肥料分析講習所が移り、東京農業大学肥料分析講習部となった1913年に部長として就任された。東京農業大学に着任された際、脚気に苦しむ学生にオリザニンを取り寄せて与え、元気にさせたエピソードが自著の「研究の回顧」に述べられている。



写真 鈴木梅太郎先生 実験室

また、鈴木先生のオリザニン発見と関わりのある実験室は、先生の寄贈により1936年に当時渋谷にあった本学に移築され、今日の本学農芸化学科の礎となった。残念なことであるが、この実験室は戦災により焼失した。

鈴木先生の研究室にあったオリザニンやビタミン類の抽出物や合成物は、高弟であった佐橋佳一教授が本学に着任された際に持参し、農芸化学科生物化学・栄養化学研究室で保管され、鈴木隆雄教授（第八代東京農業大学長）、長谷川忠男教授へと受け継がれた。著者も学生時代、生物科学研究室に配属された際に標本を見せていただき、大変感激したのを覚えている。

その後、長谷川忠男教授は、歴史的にも貴重な

標本を一つの研究室で保管・管理し続けるのではなく、後世へ伝えるためにも適切な機関へ管理を依頼することが重要であると考え、本学図書館内



写真 オリザニン・ビタミン類の標本

にあった農業資料室（博物館相当施設）に管理を任せることにした。現在、農業資料室は、組織変更により図書館から離れ「食と農」の博物館となっている。長谷川先生から託されたオリザニンやビタミン類の標本は、「食と農」の博物館で保管・展示されている。「食と農」の博物館にお立ち寄りの際は、是非ともこの貴重な標本を見ていただきたい。

写真提供

「鈴木梅太郎先生 肖像」、「鈴木梅太郎先生 実験室」の各写真は東京農業大学図書館提供「オリザニン・ビタミン類の標本」写真は東京農業大学「食と農」の博物館提供。

参考資料

- 1) 牧之原市観光協会
http://www.makinoharashikankoukyoukai.com/contents/miru_shiru/history/ijin03_suzuki-umetarou.html 2018/4/18
- 2) 農大お宝100選 東京農業大学編、東京農業大学出版会、2003、3 p41
- 3) 研究の回顧：伝記・鈴木梅太郎、鈴木梅太郎著、大空社、1998、12
- 4) 記念シンポジウム縁品展示で見る鈴木梅太郎先生の偉業、東原和成、吉田 稔、吉川博文、化学と生物、Vol. 50, No. 12, 2012 p921-926

香川大学図書館農学部分館

Kagawa University Library, Faculty of Agriculture Branch

1. 沿革並びに概要

香川大学は現在4キャンパスから成り、それぞれに図書館が設置されている。すなわち、香川大学図書館は、高松市幸町キャンパス（大学本部、教育学部、法学部、経済学部等）の中央館、同市林町キャンパス（創造工学部）の創造工学部分館、木田郡三木町の三木町医学部キャンパス（医学部・同附属病院）の医学部分館、そして三木町農学部キャンパス（農学部）の農学部分館の4館で構成されている。



写真1 香川大学農学部管理棟

農学部の創立は明治36年（1903）の木田郡立乙種農学校の設立にさかのぼる。これが発展して香川県木田郡立甲種農林学校、香川県立農林学校、香川県立木田農業学校、香川県立木田農業高等学校を経て、昭和22年（1947）に香川県立農業専門学校〔農業科・農産製造科〕（農専）が設立された。昭和25年（1950）に同農専は香川県立農科大学（農大）に昇格し、昭和30年（1955）7月に農大が国に移管されて香川大学農学部となった。

この間、大正12年（1923）10月、香川県立木田農業学校の時に創立20周年記念式を挙行し、そ

の一ヵ月後の11月28日に学友会文芸部により図書館が新設された。学友会とは校友会と同窓会が合併した団体である。昭和24（1949）年、香川県立農業専門学校の際に図書館書庫・閲覧室を竣工した。現在の香川大学図書館農学部分館は上記の国立移管時に香川大学附属図書館農学部分館として発足した。発足当初は香川県立農業専門学校時代の図書室を拡張して使用していたが、昭和45年（1970）に農学部管理棟東端部に延べ面積817㎡の農学部分館を設けた。その後、昭和60年（1985）に増築が行われ、延べ面積1142㎡に拡張された。

平成15年（2003）に香川大学と香川医科大学が統合され、平成16年（2004）には国立大学法人化、そして平成19年（2007）学内の機構改革により「香川大学附属図書館農学部分館」から「香川大学図書館農学部分館」に名称変更されて現在に至っている。

収集資料は設置学部の農学部での学習・研究に対応した分野（農学に加えて生物学と化学）の資料を中心に、図書約10万冊、雑誌約6千種類を所蔵している。

2. 利用状況と利用促進活動について

主に農学部教員・学生院生によって利用されているが、学外者へも開放されている。年間の利用者数は延べ4万人程度で、図書の貸出利用は3千冊程度である。

電子ジャーナル等の導入により、一時期直接来館する利用人数や図書の貸出数が減少したことがあった。そこで、特に学生に対する利用促進策として平成23年度（2011）から、前期・後期に利用回数と貸出冊数の2部門での優良利用者を「農学部

分館ベストユーザー」として表彰する制度を導入した。表彰者には農学部分館長からの表彰状のほか、農学部後援会の支援を受けて副賞を贈呈している。この制度の導入や種々の働きかけにより、利用者数・貸出冊数は回復し増加の傾向にある。

3. 農学部分館の機能改修について

閲覧席の 67 席に加えて、自由に使える PC 8 席のメディアコーナーを設置して、農学部の学生・教職員等に十分に活用されてきたが、増築以来 30 年以上を経過して設備としての古さも目立ってきていた。また、近年の教育改革に図書館としても貢献する必要がある、さらに、省エネとセキュリティ強化を促進する必要性も増した。



写真 2 旧閲覧室



写真 3 旧メディアコーナー(現ラーニングコモンズ)

平成 29 年度(2017)の概算要求で香川大学農学部管理棟(A棟)全体の改修が認められて、管理棟内に位置する農学部分館も改修を行うことになった。改修にあたっては図書館内だけでなく、農

学部分館長・図書委員ほか農学部教員や学生からの意見を参考にして、老朽化した壁面・床面の更新だけでなく、出入り口の変更による使い勝手の向上やラーニングコモンズ新設などの機能的な強化もはかることとなった。

29 年度当初から新しい農学部分館プランの設定や工事期間中に仮図書室へ移動する準備を進めて、8 月に工事準備のための資料移動や片づけを行い、9 月から 12 月の工事期間は 48 m²の小さな仮図書室で開館を行った。仮図書室にはシラバス指定の参考図書など限られた資料と利用者 PC 4 台しか配置出来ず、利用者の方々には多大な不便をかけることになったが、限られた空室スペースを講義室・事務室等と分け合わざるを得なかった。

改修工事終了後に退避資料の養生の状況も完全であることを確認し、その戻し作業などを行い、平成 30 年 1 月 5 日リニューアルされた農学部分館として開館を開始した。

4. 改修後の農学部分館について

旧農学部分館出入り口は管理棟 2 階中央部に設けられていて、東西にある階段やエレベーターから距離があり、場所が分かりやすいとは言い難いものだった。そこで管理棟東端の階段を上がって直近の位置に出入り口を移動した。また出入り口も倍近くに広げたため非常に分かりやすく明るい感じに変更された。



写真 4 旧農学部分館出入り口

次にラーニングコモンズが新しく設置された。香川大学図書館では中央館に次いで 2 館目の設置となる。学生の自発的な学習に有効なラーニングコモンズ設置は以前から望まれていたが、大きく部屋割りを変更する予算が確保できず見送られて

いた。今回の改修により、事務用のスペースを削った部分と旧来のメディアコーナー部分と足し合わせて 82 m²のラーニングcommonsを農学部分館西端に設けることが出来た。利用者用 PC 設置 16 席と机席 16 席を用意し、また東隣の閲覧室との間には遮音用引き戸を設けた。東西の壁面はスクリーンと白板を兼ねている。



写真5 新農学部分館出入口



写真6 新設ラーニングcommons

中央館ラーニングcommonsに対して規模は小さいが、グループ学習や各種講習会等に今後の活用が期待されている。

出入口正面の利用者から目立つ分かりやすい位置にサービスカウンターを新設した。以前はメディアコーナー内にあった検索性端末2台もサービスカウンター近くに配置することによって利用者が資料検索について相談しやすくなっている。

ラーニングcommons、閲覧室の壁や床また窓が改修されて、館内全体が非常に明るい雰囲気になされた。利用者からの評判も明るくきれいになったと上々である。また蛍光灯を使用していた図書館内照明はすべてLED照明へ更新されて省エネに貢献している。エアコンもかなり古い機種を無理して使っていたが、最新の省エネ対応の機種へ更新された。

雑誌のバックナンバーを中心とする書庫が3階層あるが、照明スイッチの場所が分かりづらく夜間の使用に不便があったが、要所を人感センサー付き照明に改修されたことにより使い勝手が非常



写真8 新閲覧室



写真7 新設サービスカウンター



写真9 新設備付除湿器

に向上した。

また過去に書庫内で黴害が発生したことがあったが、今回の改修により大型の備付除湿器が6台設置されて、除湿水の水捨てに悩まされることなく除湿器の常時稼働が可能になり、かなり有力な黴害対策となっている。

5. 図書館予算による改修

図書館予算による改修も併せて行われた。補修部品が切れた古い入退館管理装置を更新して、磁気カードから IC カード対応の新しい入退館装置が設置された。香川大学では学生証と職員証が IC カード化されているため、別カード発行などの手間をかけることなく、学生証により無人開館利用が可能になった。またセキュリティ面でも画質に



写真 10
新設 IC カード対応
入退館カードリー
ダー

難があった旧来の白黒監視カメラに替えてカラーカメラが6台設置されたため、セキュリティ面でも安心感が向上した。

ラーニングコモンズ内のグループ学習用机椅子だけでなく、利用者用 PC 席の椅子も古いものを流用していたため、図書館予算にて新しいデザインのものに更新した。

6. 今後の課題

図書館本来の機能に加えて省エネ・セキュリティ対策も向上したが、農学部分館ラーニングコモンズを今後十分に利用してもらうための宣伝や運用方法や規則などはまだ検討中の段階である。また、少ない人員（常勤2名、6時間非常勤1名）によって拡大した利用者サービスにどう対応してゆくかを考える必要がある。

<図書館所在地>

〒761-0795 香川県木田郡三木町池戸 2393 番地
香川大学図書館農学部分館

https://w3.lib.kagawa-u.ac.jp/?page_id=135
楢橋一雅

平成30年1月から3月に発表された図書館員に役立つような情報を掲載します。業務の一助にお使いください。記事の情報源はそれぞれの項目ごとに明示してあります。

【ミルキークイーン3姉妹で作期分散- 早生の「ミルキーサマー」と晩生の「ミルキーオータム」 -】

農研機構次世代作物開発研究センターは、「ミルキークイーン」型低アミロース米品種の晩生種「ミルキーオータム」を開発。「ミルキークイーン」は、米飯の粘りが強く冷めても硬くならず良食味であることが市場で高く評価されていますが、作期が「コシヒカリ」と重なっているため、熟期の異なる品種の育成が望まれていました。「ミルキークイーン」と平成21年に育成した極早生品種「ミルキーサマー」に加えて、今回育成した晩生品種「ミルキーオータム」の3品種を効率よく利用すれば、「ミルキークイーン」型低アミロース米の作期を分散して生産することが可能になります。

情報源：農研機構次世代作物開発研究センター（プレスリリース）

2018年1月17日

【ダッタンソバ新品種「満天きらり」への他品種の混入防止マニュアルを作成- 「苦くない」製品生産のための、栽培から製造までの注意点 -】

ダッタンソバ新品種「満天きらり」は、ルチン分解酵素をほとんど持たない、世界初のダッタンソバ品種。「満天きらり」は従来のダッタンソバと比較して、(酵素によるルチンの加水分解がないため)製品化した際に、苦みがほとんど無いのが大きな特徴。ダッタンソバの栽培履歴がある畑や製粉履歴がある機械などにおいて、「満天きらり」の種子や粉に、他のダッタンソバ(ルチン分解酵素を持っている品種)がわずかも混入するとルチンの分解が進み、苦みが生じて品質が低下するので、他のダッタンソバやソバからの隔離が必要です。このため農研機構生産者、製粉業者、食品加工業者向けに、収穫、

製粉、食品製造までの各段階での「満天きらり」への他のダッタンソバ品種の混入を防止するためのマニュアルを作成しました。

情報源：農研機構北海道農業研究センター（プレスリリース）

2018年1月22日

【香川県で発生した高病原性鳥インフルエンザの原因ウイルスの由来について- 大陸を渡る高病原性鳥インフルエンザウイルス -】

2018年1月11日に香川県で発生した高病原性鳥インフルエンザ (highly pathogenic avian influenza: HPAI) の原因ウイルス (香川株) が H5N6 亜型の高病原性鳥インフルエンザウイルス (highly pathogenic avian influenza virus: HPAIV)³⁾ であることを明らかにした。本ウイルスは、国際獣疫事務局 (OIE) の定める静脈内接種試験で、鶏を24時間以内に殺す高い病原性を示しました。香川株の全ゲノム配列を解読し、その8本の遺伝子分節について既知のA型インフルエンザウイルスと比較したところ、8本の遺伝子分節のうち7本は、昨年度ヨーロッパで流行した H5N8 亜型 HPAIV に由来し、NA 遺伝子は、ユーラシア大陸の野鳥に分布している HxN6 亜型鳥インフルエンザウイルス (Hx とは、HA 亜型が不明という意味) に由来。2017年11月に島根県のコブハクチョウから分離された H5N6 亜型 HPAIV とは、遺伝的に近縁でしたが明確に区別が可能。このことは、本冬に国内に少なくとも2種類の H5N6 亜型 HPAIV が侵入していることを示しています。

本ウイルスの推定アミノ酸配列には、抗ウイルス剤であるノイラミニダーゼ阻害剤に対する耐性変異は見られませんでした。また、哺乳類に対する感染性を増加させる様な既知のアミノ酸変異も認められていません。農研機構動物衛生研究部門では、今後本ウイルスの家禽への感染性、ウイルス排泄などを精査して行くことにし

ています。

情報源：農研機構動物衛生研究部門（プレスリリース）

2018年1月24日

【酸味の少ないニホンスモモ新品種「ハニービート」- 既存の良食味品種よりも早い時期に収穫できる品種 -】

我が国では現在、酸味の少ないニホンスモモ品種が好まれ栽培が増加。しかし、関東地方における酸味の少ない品種の収穫期は、7月下旬以降に限られていました。そこで農研機構では、既存の酸味が少ないニホンスモモ品種よりも早く、関東地方で7月中旬頃に収穫できる良食味の新品種「ハニービート」を育成。「ハニービート」は中生の主力品種である「ソルダム」や酸味の少ない品種である「サマーエンジェル」より約10日早く収穫可能です。このため従来よりも早い時期から、高品質ニホンスモモが流通可能となります。果実の大きさは、「ソルダム」と同等で、甘味が多く酸味が少なく食味良好。「ハニービート」の苗木は平成30年秋より販売される予定。

情報源：農研機構果樹茶業研究部門（プレスリリース）

2018年1月25日

【小笠原諸島に固有の海鳥をDNA分析で発見—セグロミズナギドリとされていた小笠原の海鳥は全くの別種だった—】

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所は、国立大学法人北海道大学、NPO法人小笠原自然文化研究所と共同で、小笠原諸島のセグロミズナギドリが、他地域とは遺伝的に異なる固有種であることを明らかにしました。この鳥は約100年前に発見され、当初は“オガサワラミズナギドリ”という名の固有種として分類されていました。その後、分類については十分な科学的根拠を伴わないまま議論され、最近では世界に広く分布するセグロミズナギドリの亜種であると考えられていました。小笠原諸島のセグロミズナギドリは南硫黄島と東島という2つの小さな無人島でしか繁殖が確認されておらず、外来動物であるネズミによる捕食や、外来

植物による営巣環境の劣化が大きな脅威となっているため、環境省が絶滅危惧IB類に指定する希少種です。今回、私たちはこの鳥のDNAを分析し、広域分布種セグロミズナギドリとは遺伝的に異なる固有種であるということを科学的に証明。この結果は新種発見に匹敵する意義を持ち、特に世界自然遺産地域小笠原における隠れた固有種の発見は、この地域の価値をさらに高めるものと言えます。この鳥の生態や分布についてはまだ不明な点も多く、保全のための研究を進める必要があります。

情報源：国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所（プレスリリース）

2018年1月25日

【マツタケ近縁種の人工栽培に成功！】

奈良県森林技術センターでは、平成27年度から国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所と共同で「高級菌根性きのこの栽培技術」の研究をしてきました。奈良県の役割分担として、マツタケ近縁種で正式名称「バカマツタケ」の人工栽培技術の開発に取り組んできたところ、全国で初めて、人工的に林内でバカマツタケ菌を増殖させ子実体（きのこ）の発生に成功。（平成30年1月19日特許出願）今後、栽培技術を確立して、県内の「きのこ生産者」に技術を普及していきたいと考えております。

情報源：奈良県森林技術センター（プレスリリース）

2018年1月27日

【高温でも容易に着色する極大粒のブドウ新品種「グロースクローネ」- 西南暖地でも安定して紫黒色果実が得られる良食味の極大粒品種 -】

現在わが国で栽培されている大粒ブドウは、「巨峰」や「ピオーネ」など果皮が紫黒色の品種が中心ですが、夏季の高温の影響により、西南暖地を中心に着色不良が発生しています。「巨峰」や「ピオーネ」では、このような果実は“赤熟れ”と呼ばれ、商品性が著しく低くなるため、生産現場では大きな問題になっています。そこで、農研機構は、夏季の気温が高くても良好な着色が得られる極大粒ブドウ品種「グロースク

ローネ」を育成。「グロースクローネ」は、「巨峰」、「ピオーネ」とほぼ同時期に収穫でき、ジベレリン処理により容易に種なし果を生産できます。ジベレリン処理果房の果粒は両品種よりも大きく20g程度となります。「グロースクローネ」は、「巨峰」、「ピオーネ」の着色不良が生じやすい西南暖地での大粒ブドウの生産に貢献。「グロースクローネ」の苗木は平成30年秋より販売される見込み。

情報源：農研機構果樹茶業研究部門（プレスリリース）

2018年2月15日

【多収で病害虫に強い飼料用米に適したイネ新品種「みなちから」- 西日本地域での飼料用米の安定生産に貢献 -】

これまで育成された温暖地での栽培に適した多収品種は、倒伏や病害虫により収量が十分に発揮できない事例が多くありました。このため、農研機構西日本農業研究センターは、西日本地域で栽培が可能で、多収かつ病害虫に強く、倒れにくい新たな多収品種「みなちから」を育成。「みなちから」の収量は、多肥移植栽培では81.6kg/a(4カ年平均)で、既存の多収品種の「ホシアオバ」より約9%多収。稈長が「ホシアオバ」より20cm以上短く倒れにくいいため直播栽培にも適しています。いもち病抵抗性は'強'で、縞葉枯病やセジロウンカにも抵抗性を持ちます。瀬戸内沿岸部や九州地域で飼料用米として栽培が開始されており、今後の需要が期待される家畜飼料への活用が期待されます。

情報源：農研機構西日本農業研究センター（プレスリリース）

2018年2月15日

【1 クリック検索「明治から昭和前期に刊された写真集」を公開】

国国会図書館では、本日、国デジタルコレクションに収録されている明治から昭和20年までに刊行された写真集を1クリックで検索できる「明治から昭和前期に刊行された写真集」を公開。都道府県名や「人物」「建築・建設」「スポーツ」「関東震災」などの項目名から、2,600点以上の写真集を容易に検索

できます。

URL：<http://dl.ndl.go.jp/ja/photo.html>

情報源：国立国会図書館（プレスリリース）

2018年2月16日

【暑さや病害虫に強く、多収な水稻新品種「秋はるか」- 西日本における低コスト栽培に適した品種として期待 -】

農研機構九州沖縄農業研究センターは、高温登熟耐性を「にこまる」よりさらに高めた水稻新品種「秋はるか」を育成。いもち病や縞葉枯病に強く、また近年、西日本で被害が頻発している害虫のトビイロウンカに対して「にこまる」よりも強いのが特長。西日本の代表的な水稻品種「ヒノヒカリ」より約15%多収なため、低コスト栽培に適しています。栽培適地は、高標高地を除く東海以西の地域。現在、佐賀県、静岡県等で試作が行われています。

情報源：農研機構九州沖縄農業研究センター（プレスリリース）

2018年2月19日

【稲・野菜二毛作地域に適する 早生・多収の水稻新品種「歓喜の風」- 良品質・良食味米として関東以西での栽培に期待 -】

農研機構九州沖縄農業研究センターは、関東以西の稲・野菜二毛作地帯で広く栽培されている「キヌヒカリ」並みの早生で、「キヌヒカリ」より約10%多収の水稻新品種「歓喜の風」を育成。玄米の外観品質は「キヌヒカリ」よりやや優れ、炊飯米の食味は「キヌヒカリ」と同等かやや優れています。温暖化により高温時の「キヌヒカリ」の品質低下が問題となっている関東以西の稲・野菜二毛作地帯において、冬春野菜の後作としても栽培が可能。

情報源：農研機構九州沖縄農業研究センター（プレスリリース）

国国会2018年2月19日

【ウンシュウミカンの全ゲノムを解読- カンキツ品種改良の効率化に期待 -】

農研機構は情報・システム研究機構国立遺伝学研究所と共同で、ウンシュウミカン「宮川みやがわ早生わせ」の全ゲノム配列を解読。ゲノ

ムの大きさは約 3 億 6000 万塩基対でした。ゲノム配列中に約 2 万 9 千個の遺伝子が存在すると推定し、その中からカンキツの着色に関わるカロテノイド生合成の遺伝子や、結実性に関わるジベレリンの生合成遺伝子 91 個を特定。ウンシュウミカンの両親であるキシウミカンとクネンボの塩基配列も解析して比較したところ、クネンボの片親がキシウミカンであること、つまり、ウンシュウミカンはキシウミカンの子供にさらにキシウミカンが交配されて生まれたことがわかりました。本成果で得られた全ゲノム配列を利用すれば、ゲノムワイド関連解析を利用した果実形質や栽培性に関わる重要遺伝子の機能推定が高速化され、カンキツの品種育成を効率化できると期待されます。

情報源：農研機構果樹茶業研究部門（プレスリリース）

2018年2月20日

【機能分子を簡単につなげられる「結合の手」をもつシルクの高効率生産を実現-シルクの性質をより簡便・柔軟に改変可能に-】

農研機構生物機能利用研究部門は、様々な分野・用途へのシルクの利用拡大を目指し、新しい機能をもったシルクの開発に取り組んでいます。2014年には、遺伝子組換えカイコを用いて、機能分子を簡単につなげられる「結合の手」として機能する非天然型アミノ酸が組み込まれたシルクを開発。「結合の手」に色素や薬剤などの機能分子をつなげることで、単一のシルクから様々な性質をもつシルクを作出できます。開発当初は高価な非天然型アミノ酸をカイコのエサに大量に混合する必要があり、コスト面で大きな問題がありました。今回、理研との共同研究により、「結合の手」のシルクへの組み込み効率を約 30 倍に高めることに成功。その結果、まゆの生産に必要な非天然型アミノ酸のコストが大幅に低減され、実用生産への道が開けました。「結合の手」をもつシルクは、通常の遺伝子組換えまゆに対して 10~50%程度のコスト増で生産できます。「結合の手」をもつシルクを利用すれば、まゆや生糸だけでなくフィルムやスポンジに加工したあとでも、ペアとなる「結合の手」をもつ機能分子の溶液に浸すだけで簡便・迅速

に多種類の機能化したシルクを作出できます。特に、ペアとなる「結合の手」を組み込みやすい合成色素や薬剤、合成ポリマーなどによる機能化に適していると言えます。これらは通常の遺伝子組換えでは導入が不可能なため、通常の遺伝子組換えと使い分けることによってより多様な機能化が可能。本成果により、繰り返し洗濯しても色落ちしにくいカラーシルクや、創傷治癒フィルムなどの薬剤を付加した医療用シルク素材の開発が可能になります。

情報源：農研機構生物機能利用研究部門（プレスリリース）

2018年3月1日

【食肉タンパク質の加熱状態と pH を可視化する技術-食肉の消化されやすさの評価が可能に-】

高齢者などの低栄養状態の改善には、良質なタンパク質源である食肉の適切な摂取が有効ですが、食肉タンパク質は調理過程で加熱をし過ぎた場合や、胃で pH が十分に下がらなかった場合には、胃液中のペプシンによる消化性が低下することが知られています。そこで、食肉製品の適切な調理法の解明や、消化吸収に優れた製品の開発に貢献するために、農研機構畜産研究部門とフランス国立農学研究所(INRA)畜産物品質ユニット(UR370)、フランス放射光実験施設SOLEIL ソレイユ顕微赤外光束ライン(SMIS)のグループは共同研究により、加熱調理前後の食肉試料において食肉タンパク質の加熱状態と pH を、赤外スペクトルの測定によって簡単に同時検出する技術を開発。開発した方法は食肉製品の組織中の狙った場所を解析可能で、胃を模した環境での製品の胃酸による pH 変化や、調理によるタンパク質の熱変化を測定し可視化できます。

情報源：農研機構畜産研究部門（プレスリリース）

2018年3月1日

**【極限的な乾燥耐性をつかさどる制御因子を
同定—カラカラに干からびても死なない昆虫
の秘密の一端が明らかに—】**

アフリカ中部の半乾燥地帯に生息するネムリユスリカは「乾燥無代謝休眠」と呼ばれる珍しい能力を持つ昆虫で、体内の水分のほとんどがなくなるほど干からびても死なないことで知られています。これまで、ネムリユスリカの乾燥耐性機構を理解するために、乾燥耐性関連因子の同定やゲノム構造の解読が進められてきました。しかし、乾燥耐性機構を制御する遺伝子発現ネットワークについてはほとんど分かっていませんでした。今回、国際共同研究グループは、ネムリユスリカとその近縁で乾燥耐性がないヤモンユスリカのゲノムの比較から、ネムリユスリカでは乾燥で発現が上昇する遺伝子の転写開始点近傍に、ゲノム特異的な DNA モチーフ (TCTAGAA) が多く、かつ偏って存在すること、プロモーター領域に TCTAGAA を持つ乾燥誘導性遺伝子には乾燥耐性関連遺伝子が多く含まれることを見いだしました。また、TCTAGAA は HSF1 の結合領域に酷似。そこで、ネムリユスリカの培養細胞 (Pv11 細胞) を用いて、Hsf1 遺伝子を機能抑制したところ、乾燥耐性関連遺伝子の発現が減少。さらに、Hsf1 の発現を抑制した Pv11 細胞を乾燥させると、通常の Pv11 細胞を乾燥させたもの比べて、再び水に浸けた後の生存率が低下。すなわち、HSF1 が乾燥耐性を制御する重要な転写因子であることが明らかとなりました。これらのことから、ネムリユスリカは進化の過程で、熱ストレス応答性の遺伝子発現制御ネットワークを転用化した結果、極限的な乾燥耐性を発揮するようになった可能性が示されました。今後、ネムリユスリカの乾燥無代謝休眠に関連した遺伝子群を任意の細胞で発現させることで、細胞や組織の常温乾燥保存法の開発が進みます。また、新しい乾燥耐性因子の同定にもつながると期待できます。

情報源：理化学研究所（プレスリリース）

2018年3月8日

**【ツンドラの生態系でも硝酸イオンは大切な
窒素源だった —最先端の測定技術で「見えない」
硝酸イオンの重要性を検証—】**

京都大学生態学研究センターらの研究グループは、硝酸イオンの窒素酸素安定同位体測定技術を使って、ツンドラ植物にとっての硝酸イオンの重要性を明らかにしました。ツンドラ土壤では硝酸イオンは生成されず、植物にとって重要ではないと長年考えられてきました。しかし本研究では最新の濃度・同位体比測定技術を駆使して、温帯などの植物と同様に、土壤中の硝酸イオンがツンドラ植物にとって重要な窒素源であることを明らかにしました。

情報源：京都大学（プレスリリース）

2018年3月13日

**【紀伊半島から新種、クマノザクラを発見 —
観賞用の桜として期待—】**

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所は、和歌山県林業試験場と共同で、紀伊半島南部（奈良・三重・和歌山県）に新種の野生のサクラが分布していることを確認しました。このサクラは、同地域に分布するヤマザクラやカスミザクラと似ており、これらの種とこれまで区別されていませんでした。しかし、森林総研の調査によって、花や葉の形態や開花期が異なることから、これまで報告されている種と区別されることが示されました。そこでこのサクラをクマノザクラと命名し、新種としての学名を学術誌に発表する準備を進めたところ、日本植物分類学会が発行する *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica* 誌に論文が受理され、69巻2号（2018年6月下旬発行予定）で公開されることになりました。また、森林総研と和歌山県林試は、高い観賞価値を有することへの期待から、高品質なクマノザクラの種苗普及を計画しています。

情報源：国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所（プレスリリース）

2018年3月13日

**【受胎に有利な精子を泳ぎ方で選んで捕集する
技術—精子の健全性を泳ぎの形で選別して、
牛の繁殖で実証—】**

牛の精子の運動性について、直線的に泳ぐ精子よりも蛇行しながら泳ぐ精子の方が、受胎性が良いことを見出した。今回、数値流体力学計

算に基づいて設計されたマイクロ流路を持つ運動性精子選別器具を開発。開発した器具のマイクロ流路が作る特殊な流れにより運動性の精子を誘導するとともに、泳ぎ方によって精子を選別できる。また、人工授精に使用可能な量の、受精に有利な健全性の高い精子を捕集できる。今回開発した技術は、牛など家畜の繁殖性改善への貢献が期待される。

情報源：産業技術総合研究所（プレスリリース）

2018年3月20日

【小麦の品種改良を短期間で可能にするゲノム編集技術を開発】

本技術は、植物の芽に遺伝子や酵素を直接導入する技術（iPB法）にゲノム編集技術を組み合わせた汎用性の高い新規育種技術。本技術を用いることで、従来の遺伝子導入技術では必須であり、時間を要していた組織培養が不要となり、育種プロセスを大幅に簡略化できます。さらに幅広い小麦品種に適用できることから、有用品種の開発を大幅に加速することができます。今後は、小麦だけでなく、大豆やトウモロコシ、ジャガイモなどの主要作物への応用が期待されています。

情報源：株式会社カネカ（プレスリリース）

2018年3月20日

【野菜用の高速局所施肥機を開発- 高速で高精度な畝立て(うねたて)同時二段局所施肥ができます -】

主にキャベツを対象に、畝立てと同時に肥料を畝内の上層と下層の二段に局所施肥できる野菜用高速局所施肥機を開発。開発機は、車速に連動して高速・高精度に肥料を操り出せると同時に、作物の生育に効果的な位置に局所施肥を行うことができます。今後、耐久性など量産化に向けた検討を行い、平成30年度に市販化する予定。

情報源：農研機構農業技術革新工学研究センター（プレスリリース）

2018年3月20日

【総合調査報告書『岐路に立つEU』（調査資料 2017-3）を刊行】

これまでの歴史全体が危機の連続であるともいわれるEUですが、2016年に実施された国民投票の結果を受けて英国が離脱することとなり、新たな局面を迎えています。多くの加盟国で難民受入れ政策や緊縮財政政策等への反発が高まっており、フランス、ドイツ、イタリア等においてEUからの離脱を主張する政治勢力の動きが注目を集めています。域内に無盾や不協和音を抱えたEUは、これらの危機を克服し、求心力を回復することができるのか—『岐路に立つEU』では、このような問題意識に基づき、制度面を中心にこれまでのEUの動きを整理するとともに、今後の我が国との関係の在り方についても考察しました。英国のEU離脱を軸に、財政規律、欧州難民危機、ポピュリズム、労働者の国際移動、共通安全保障防衛政策、共通農業政策等をテーマとする計11編の調査報告及び欧州議会調査局（European Parliamentary Research Service: EPRS）による寄稿コラム計2編を収録しています。

URL :

<http://ndl.go.jp/jp/diet/publication/document/2018/index.html>

情報源：国立国会図書館（プレスリリース）

2018年3月20日

【不耕起対応トウモロコシ高速播種機の活用Q&Aを公開】

従来の飼料用トウモロコシの栽培では、播種前に耕うん・砕土・整地など多くの作業を行います。不耕起栽培は耕うんせずに播種する省力的な栽培法で、天候の影響を受けにくく適期の播種が容易になる、燃料消費量を削減できる等のメリットがありますが、日本での普及は一部にとどまっています。農研機構では、我が国のような狭小なほ場が分散する条件でも、効率的に飼料用トウモロコシを不耕起播種できる新たな播種機(以下、開発機)をメーカーと共同で開発。その市販化と合わせて、現地試験を行なった試験研究機関を中心に、不耕起飼料生産技術研究会を平成26年に発足させ、開発機を用いた不耕起栽培技術に関する意見・情報交換を続けてきました。開発機や飼料用トウモロコシ不

耕起栽培の一層の普及を図るため、現地試験等から得た、飼料用トウモロコシ不耕起栽培で開発機を活用するポイントを、試験事例集として取りまとめ、公表。本書のPDFファイルは、URLからダウンロードできます。

http://www.naro.affrc.go.jp/org/brain/iam/201804_fukoukiQandA.pdf 【PDF:2.42MB】

情報源：農研機構農業技術革新工学研究センター（プレスリリース）

2018年3月30日

【科学技術に関する調査プロジェクト報告書を刊行『自動運転技術の動向と課題』】

国立国会図書館調査及び立法考査局は、平成22年度から、科学技術政策上の重要課題を外部の専門家と連携して調査するプロジェクトを実施。この度、平成29年度の科学技術に関する調査プロジェクト報告書『自動運転技術の動向と課題』を刊行。自動運転に関する基礎的情報からその普及に向けた論点・課題まで幅広く調査し、裏付けのある正確な情報を基に、客観性・中立性に配慮しつつ、できる限り分かりやすい表現で、その成果を取りまとめています。

URL:<http://www.ndl.go.jp/jp/diet/publication/document/2018/index.html>

情報源：国立国会図書館（プレスリリース）

2018年3月22日

【国立国会図書館サーチは、ColBase 及び文化遺産オンラインとのシステム連携を開始】

国立国会図書館サーチ (<http://iss.ndl.go.jp/>) は、「ColBase：国立博物館所蔵品統合検索システム」と新たにシステム連携すると同時に、「文化遺産オンライン」とのシステム連携も開始。この連携により、ColBase に登録されている国立博物館の所蔵品情報が新たに国立国会図書館サーチで検索可能になり、また、文化遺産オンラインに登録されている国指定の文化財等の情報については、定期的に追加更新された情報を検索することができるようになりました。この連携は、国立国会図書館が中心となって、内閣府をはじめとする関係省庁及び主要なアーカイブ機関と連携して進めている、我が国の分野横断統合ポータル「ジ

ャパンサーチ（仮称）」（参考記事：<http://current.ndl.go.jp/e1932>）の構築に向けた取組の一環でもあります。

ColBase：国立博物館所蔵品統合検索システム (<https://colbase.nich.go.jp/>)

文化遺産オンライン (<http://bunka.nii.ac.jp/>)

情報源：国立国会図書館（プレスリリース）

2018年3月23日

平成 30 年度第 1 回理事会議事録

日 時：平成 30 年 4 月 21 日（土）
11：00～12：20

場 所：明治大学中央図書館資料室

出席者：長塚理事、惟村理事、田沼理事、木村理事、尾崎理事、野口理事、三井理事、安井理事、東盛理事 上田事務局員

オブザーバー：林賢紀氏

（議 事）

1. 新理事承認の件

事務局より、三井理事から理事推薦（林賢紀氏）の提案があった旨の報告あり、審議した結果、理事全員がこれを承認した。

2. 第 15 回通常総会議案の検討

事務局より、第 15 回通常総会議案の提案があり審議した。農図協の財政難を踏まえ、新規事業にどう取り組むかを中心に意見交換を行い、会長より「どんな活動をしたら図書館員に関心をもってもらえるか」の視点から検討が必要との意見があった。当面、「破損本の補修研修」の検討及び寄付金募集対応等についてさらに検討することとし、事務局原案を通常総会に提案することとした。

3. 当面の活動

事務局より、編集委員会及びセミナー委員会の早期開催の要請があった。

4. その他

第 15 回通常総会日程を確認した。

日時：平成 30 年 6 月 2 日（土）11 時より

会場：明治大学中央図書館（駿河台）

（主な取り組み）

平成 29 年度第 2 回編集委員会

日時：平成 30 年 3 月 12 日（月）
18：00～19：00

会場：東京農業大学惟村研究室
（議 題）

1. 2018 年度会誌編集計画の検討
2. その他

平成 30 年度第 1 回理事会

日時：平成 30 年 4 月 21 日（土）
11：00～12：20

場所：明治大学駿河台中央図書館資料室
（議 題）

1. 第 15 回通常総会議案の検討
2. 新理事承認の件
3. 当面の活動
4. その他

(編集委員)

委員長	惟村 直公	東京農業大学
委員	三井 文子	農研機構果樹茶業研究部門
	尾崎 聖太郎	麻布大学
	東盛 達也	明治大学
事務局	田沼 繁	特定非営利活動法人 日本農学図書館協議会

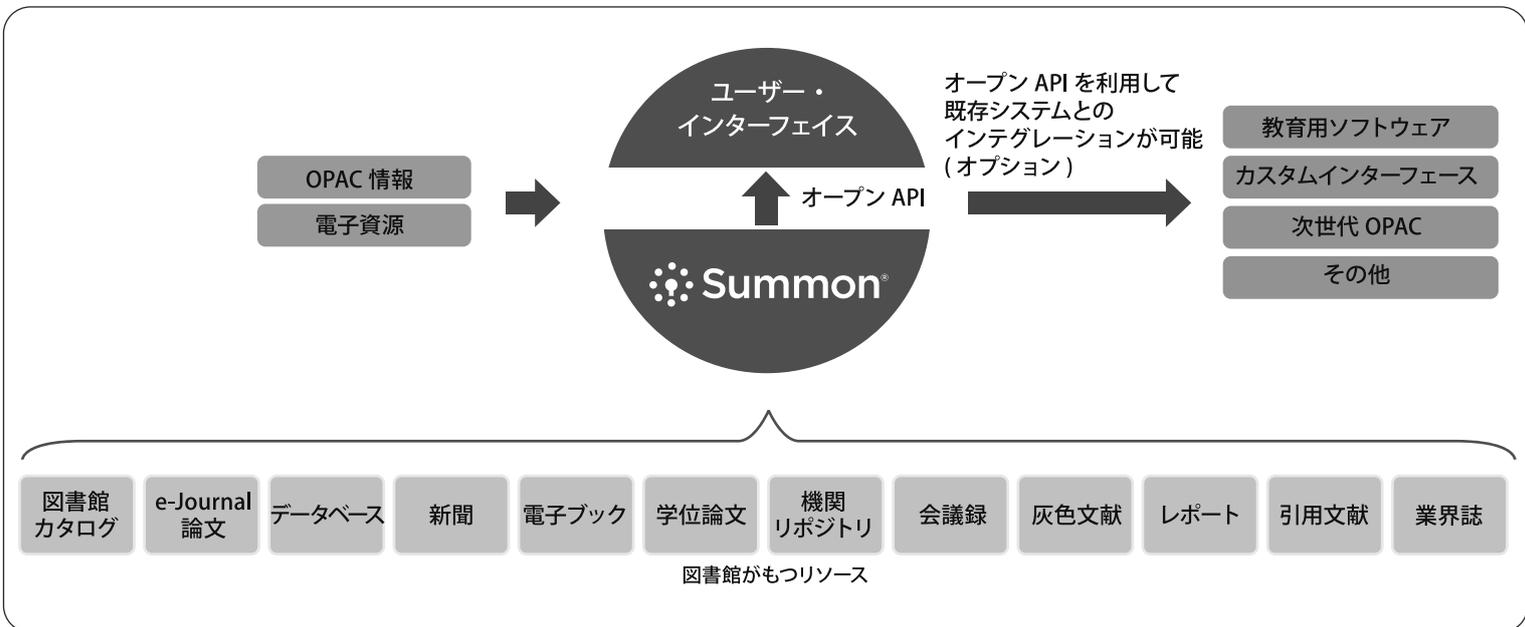
会 員 頒 布

日本農学図書館協議会誌 190号
2018年(平成30年)6月1日発行
発行人 長塚 隆
編集・発行 特定非営利活動法人日本農学図書館協議会
住 所 〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学教職・学術情報課程
TEL&FAX 03(3408)5077 e-mail:jaald@nifty.com
URL:<http://www.jaald.ac.affrc.co.jp>
印 刷 所 東京大学構内 文陽堂文具店
住 所 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
法文2号館地階
TEL&FAX 03(3813)7386 e-mail:bunyodo@amethyst.broba.cc

I S S N 1342-1905

Summon は統合検索や次世代 OPAC を越える全く新しい検索サービスです。Google のようなシンプルなインターフェイスから図書館独自の広範囲で信頼性の高い情報へすばやくアクセスすることができます。

図書館の所蔵資料や契約データベース・電子ジャーナル、機関リポジトリ、オープンアクセス誌といった図書館で利用できるすべてのリソースのメタデータをあらかじめハーベスティングさせる手法でこれまでにない検索スピードを実現しました。



POINT 1

すべてのリソースを一度に検索

すべてのリソースをたったひとつの検索窓から見つけることができます。現在のインターネットユーザーのニーズを満たす新しい学術情報の検索スタイルを提供します。

POINT 2

信頼のおけるコンテンツだけを検索

検索対象はすべて図書館のコンテンツです。信頼性が高く、しかも入手可能なコンテンツにのみアクセスすることができます。

POINT 3

瞬時に検索結果を表示

図書館で利用できるすべてのリソースのメタデータをあらかじめハーベスティングさせるので、Google などの検索スピードを実現します。



図書館システムと連携して 所蔵・貸出情報を リアルタイムで表示

冊子の検索結果には現在の貸し出し状況や保管場所が表示されます。検索結果をクリックすると図書館 OPAC のライブリンクになっています。

availability: 貸出中, 中央図書館所蔵

SaaS 型サービスなので 導入・メンテナンスの 手間がかかりません

Software as a Service(SaaS) で提供されるため、サーバーの設置やアップデート、メンテナンスといった作業に人員を割く必要はありません。常に最新で最適な状態でサービスを利用することができます。

目的の資料への確にナビゲートします

ファセット機能によりフォーマット、主題、出版年などによる絞り込み検索を効率的に実行できます。また、360Link などのリンクリゾルバと連携して該当の資料に確実にたどり着くことができます。

360 360 LINK